

令和3年度
消防庁女性活躍ガイドブック

令和4年3月
消防庁消防・救急課

もくじ

第1章 県及び消防本部の取組事例の紹介

①	【茨城県】	つくば市消防本部	・ ・ ・ ・ ・	P 2
②	【茨城県】	稲敷広域消防本部	・ ・ ・ ・ ・	P 6
③	【千葉県】	長生郡市広域市町村圏組合消防本部	・ ・ ・ ・ ・	P 9
④	【千葉県】	柏市消防局	・ ・ ・ ・ ・	P 12
⑤	【神奈川県】	大磯町消防本部	・ ・ ・ ・ ・	P 16
⑥	【静岡県】	駿東伊豆消防本部	・ ・ ・ ・ ・	P 19
⑦	【愛知県】		・ ・ ・ ・ ・	P 23
⑧	【愛媛県】	新居浜市消防本部	・ ・ ・ ・ ・	P 27
⑨	【福岡県】	粕屋北部消防本部	・ ・ ・ ・ ・	P 30
⑩	【大分県】	大分市消防局	・ ・ ・ ・ ・	P 33
⑪	【沖縄県】	金武地区衛生消防組合	・ ・ ・ ・ ・	P 36

第2章 令和3年度「モデル事業」の紹介

①	【秋田県】	北秋田市消防本部	・ ・ ・ ・ ・	P 40
②	【山梨県】		・ ・ ・ ・ ・	P 43
③	【愛媛県】	松山市消防局（愛媛県消防長会事務局）	・ ・ ・ ・	P 46

第3章 女性消防吏員にかかる基礎データ資料

・ ・ ・ ・ ・ P 50

ガイドブック掲載事例一覧（11団体）

（第1章）消防本部の取組事例の紹介		
NO.	団体名	事業内容など
1	茨城県 つくば市消防本部	<ul style="list-style-type: none"> ○効果的なPR（ポスター作成、ホームページ活用等） ○女性専用施設の整備 ○マタニティ制服の導入、子育て支援
2	茨城県 稲敷広域消防本部	<ul style="list-style-type: none"> ○女性限定の職場体験会の実施 ○効果的なPR（女性消防吏員特設サイト等）
3	千葉県 長生郡市広域市町村圏組合消防本部	<ul style="list-style-type: none"> ○女性専用施設の整備 ○女性のための職場体験会の実施 ○消防大学校への入校
4	千葉県 柏市消防局	<ul style="list-style-type: none"> ○にじいる救命女子の結成 ○効果的なPR（ポスター作成） ○資機材に関する視察
5	神奈川県 大磯町消防本部	<ul style="list-style-type: none"> ○女性比率が上位 ○効果的なPR（広報紙に特集） ○女性専用施設の整備
6	静岡県 駿東伊豆消防本部	<ul style="list-style-type: none"> ○効果的なPR（当本部独自のガイドブック作成） ○マタニティ制服の導入
7	愛知県	<ul style="list-style-type: none"> ○県内消防本部合同就職説明会の実施
8	愛媛県 新居浜市消防本部	<ul style="list-style-type: none"> ○女性消防吏員初採用（3名の同時採用） ○女性専用施設の整備
9	福岡県 粕屋北部消防本部	<ul style="list-style-type: none"> ○効果的なPR（ポスター、SNS発信） ○総務省消防庁-女性消防吏員活躍推進アドバイザー派遣講演 ○女性専用施設の整備
10	大分県 大分市消防局	<ul style="list-style-type: none"> ○効果的なPR（SNSのライブ機能を利用したセミナーの実施） ○スポーツとの両立推進
11	沖縄県 金武地区衛生消防組合	<ul style="list-style-type: none"> ○女性専用施設の整備 ○採用試験要領の見直し ○職員定数増への動き
（第2章）令和3年度 モデル事業紹介（※）		
NO.	団体名	事業内容
1	秋田県 北秋田市消防本部	<ul style="list-style-type: none"> ○女性消防吏員募集の看板作成、女性限定の職業体験会の実施
2	山梨県	<ul style="list-style-type: none"> ○広報（新聞掲載、PR動画の作成）、就職企業ガイダンスへの出席
3	愛媛県 松山市消防局	<ul style="list-style-type: none"> ○広報（採用PV動画、VR動画）、4機関合同オンライン職業説明会、県内消防本部合同ワーキンググループ会議

※モデル事業とは「令和3年度消防本部における女性消防吏員活躍推進モデル事業の委託に関する提案募集について」（令和3年3月12日付け消防消第57号消防・救急課長通知）において提案され、採択された実施事業のこと

《第1章》
消防本部の取組事例の紹介

【茨城県】つくば市消防本部



○管轄区域：茨城県つくば市

○管轄人口：242,866人

○消防吏員数：321人
(うち女性12人・女性比率3.7%)

いずれも令和3年4月1日現在

1. 管内の特徴

つくば市は、茨城県の南西部に位置し、茨城県の県庁所在地水戸市から南西に約50km、首都東京から北東に約50km、成田国際空港（成田市）から北西に約40kmの距離に位置しています。面積は283.72km²で、東西14.9km、南北30.4kmと南北に長い形状となっており、北端には877mの関東の名峰筑波山を擁し、南端には牛久沼を望んでおり、その中に1本部3消防署5分署が配置されています。

市の中心部には筑波研究学園都市が位置し、官民合わせておよそ180の教育・研究機関があります。また、平成17年に開業したつくばエクスプレスの沿線では市街地整備が進み、年々人口が増加し続けており、都市化が進んでいます。

2. 女性活躍の経緯

当市消防本部は、昭和49年4月1日に筑南地方広域行政事務組合消防本部を発足し、市町村合併に伴い平成14年11月に現在のつくば市消防本部に名称変更しました。

平成16年に女性消防吏員を初めて採用し、それに合わせ中央消防署において、女性用の仮眠室、浴室等を整備しました。その後、女性消防吏員の増加とともに北消防

署、南消防署及び平成20年に開署した並木分署と女性用施設を整備した署を増やしていきました。

現在12名の女性消防吏員が勤務しておりますが、初採用からしばらくは救急救命士枠のみでの採用であり、全員が救急隊勤務でした。その後、消防指令課、本部日勤へ配置することで活躍の場を拡げるとともに、平成31年には初めて消防士枠で採用され、現在は消防隊員兼機関員としても活躍する等、徐々に職域の拡大を図っております。

女性活躍の推進には、積極的な女性消防吏員の採用とより良い待遇の確保が必要となっていくことから、今後も、職員一丸となって取り組んでいきます。

3. 女性活躍推進に向けた取組

(1) 女性消防吏員の積極的な採用に向けた取組

就活を控えた女子学生に対し、消防へ興味を持ってもらうため、女子学生向けの消防職場体験会を実施し、総務省消防庁主催のワンデーインターンシップに参加しています。近年は新型コロナウイルスの関係で実施できていませんが、その代わり女性消

防吏員をメインモデルとした職員募集ポスターやパンフレットを作成することで、女性消防吏員の活躍推進をPRし、女子学生の受験者数増に寄与しています。



(2) 女性用仮眠室等の設置及び改修

女性消防吏員の増加に伴い、新庁舎を建設した中央消防署及び並木分署に女性用の仮眠室、浴室等を備えるとともに、既存の庁舎である北消防署、南消防署においては、女性消防吏員の要望を基に女性用施設をリニューアルし、環境の改善にも努めており、女性消防吏員が生活しやすい態勢を整えています。



(3) マタニティ制服の導入

今まで女性消防吏員が妊娠した場合は、大きいサイズの消防服を着用し、ベルトを緩める等の対応をしていましたが、服装の乱れやお腹が圧迫されることによる胎児への影響が懸念されていました。

これらの懸念事項を解消するため、消防職員委員会にてマタニティ制服を導入する議案に対して委員の賛成多数で可決、令和3年4月に導入しました。

着用した女性消防吏員からも、お腹への圧迫感はなく、階級章をつけることができるため、事務室で勤務をしても違和感なく職員として自信をもって窓口対応ができる、という意見をいただいております。大変好評です。



(4)「つくば市女性消防吏員の勤務に関する要項」の制定

女性消防吏員が増加するに従って、妊娠・出産に伴う人事配置等の問題、男性職員からのハラスメントの問題が考えられることから、それらを解消することを目的に、令和3年4月に「つくば市女性消防吏員の勤務に関する要項」を制定しました。

この要項は、消防業務における母性の尊重と男女の均等な機会及び待遇の確保を規定したのですが、特に妊娠した際の育児休業の取得及び復帰の際の配慮、男性消防吏員との職務内容の平等化を呼びかけ、それを全職員に浸透させることで、女性消防吏員がより働きやすい職場作りを目指すとともに、パワハラ、マタハラ等のハラスメント防止対策の強化に取り組んでいます。

(5)子育てへの取組

女性活躍における様々な取組の中で、子育てへの配慮については、特に重点を置いています。女性消防吏員が育児休業から復帰する際は、復帰後の異動先等の希望を聞き取り、最大限配慮できるようにしています。

また、育児関係の各種休暇制度について、職員へ周知し、理解を深めてきた結果、女性消防吏員が妊娠した場合の育児休業取得はもちろんのこと、男性消防吏員への2週間以上の育児休業取得も推進されており、令和3年度は途中経過ですが80%以上を達成しています。これは全国的にみてもかなりの高水準となっております。今後は、男女とも育児休業取得率の100%を目指し、子育てに優しい消防本部を目指していきます。

4. 女性活躍推進への今後の取組と課題等

女性消防吏員の増加に伴い今後考えられる問題として、男性職員からのパワハラ・マタハラ等のハラスメントの問題があります。女性消防吏員は、その多くが10年未満の職員であり立場も弱いことから、ハラスメント対策を最重要課題として取り組んでいます。

ハラスメントの撲滅には、まず幹部職員の意識改革が必要です。平成30年に消防長からハラスメント防止宣言を出し、その後も、撲滅に向けた文書を定期的に発出し、研修を実施する等して、その対策に取り組んでおります。職員にも「ハラスメントは絶対ダメ」という意識が浸透してきているとともに、以前よりは訴えやすい環境になってきていると感じています。

今後も、ハラスメントゼロを目指し徹底した取組を実施していきたいと考えています。

5. 女性消防吏員の声

【令和元年度採用 井口貴美消防副士長】

「消防士」と聞いてみなさんはどのような姿を想像しますか？

身体を鍛え上げられたムキムキの救助隊、優しそうな救急隊、重いホースを何時間も持ち火を消す消防隊。

ではその中で女性を想像した方が何割いるのでしょうか。

現在、消防吏員に拝命されて3年目の私は機関員としての責務を全うしようと日々勉強の毎日を送っています。機関員は、管轄の地理や水利を覚えることも重要な任務であり、運転技術も磨かなければなりません。当務日はもちろんのこと、非番日も利用して管轄の地理や水利の特性を勉強

し、火災時にはスムーズに水出しが出来るよう訓練に励んでいます。

消防はまだまだ男社会であり、実際に腕力や体力が必要な場面は多々あります。男性に力では敵わないこともあります。

しかし、その中でも自分ができること、得意なことを伸ばしていき、「この分野なら自信を持てるぞ！」と胸を張って仕事が出来よう日々励んでいきたいです。

そしていつの日か、消防＝男性という方程式が良い意味で壊れて、女性がたくさん活躍できる職の一つになることを願っています。



6. メッセージ

消防分野における女性消防吏員の活躍は、男性しかいなかった消防職場において、女性ならではの視点や価値観を導入することで、市民、特に女性に対し、親しみやすさや安心感を与えており、それが住民サービスの向上につながっています。

職場においては、もちろん男女平等ではありますが、その中でも女性の強みを存分に発揮してもらい、組織を活性化していただきたいと思います。

今後とも、女性消防吏員のためにハード・ソフト両面において、更なる環境改善に努め、女性消防吏員が「女性らしく」そして「安心して」働ける職場作りを目指していきます。

【茨城県】^{いなしき}稲敷広域消防本部



○管轄区域：茨城県龍ヶ崎市、牛久市、
稲敷市、阿見町、利根町、
河内町、美浦村（3市3町1村）

○管轄人口：284,612人

○消防吏員数：413人
（うち女性14人・女性比率3.4%）

いずれも令和3年4月1日現在

1. 管内の特徴

本圏域は茨城県南部にあり、東京都心から北東へ約50kmで、筑波研究学園都市と成田空港との中間に位置し、龍ヶ崎市、牛久市と稲敷市を中心に3市3町1村によって構成されています。

北部には風光明媚な霞ヶ浦、南東部には釣りの名所ともなっている利根川や横利根川に境を接し、西部は白鳥が集う牛久沼があり、豊かな自然環境のなかにあります。

また、圏央道の阿見東ICで下りれば、あみプレミアム・アウトレットや牛久大仏もすぐそばです。

2. 女性活躍の経緯

当消防本部は、昭和50年4月1日に発足後、平成23年4月1日までの約47年間女性消防吏員の採用はなく、庁舎内には女性トイレはあるものの、仮眠室、浴室等の女性用施設が整っていない状態でした。平成24年以降に開署された庁舎については、女性専用の施設を整え、平成23年4月1日に当消防本部初となる女性消防吏員1名の採用から、令和3年4月1日までに女性消防吏員14名を採用しております。

3. 女性活躍推進に向けた取組

(1) 女性限定の職場体験を実施

平成28年度、平成30年度、令和元年度と過去3回、女性限定の職場体験を実施しました。実際に防火衣を着装しての放水体験や、女性消防吏員との質疑応答など、毎回参加者に好評で、当消防本部にとって「女性の活躍する消防本部」をアピールする大変良い機会となっております。職場体験を実施した結果、参加者のうち2名が現在当消防本部で活躍しています。

(2) 施設の整備

全10施設のうち、5署所で女性専用施設が設置され、現在3署所で女性が勤務しています。

(3) 活躍する女性消防吏員特設サイト

令和3年度から当消防本部のHPで「活躍する女性消防吏員特設サイト」を公開しています。このHPには、活躍する女性消防吏員の紹介や、消防士になろうと思った理由、消防学校のこと、働いてみて思うことなど、さまざまな情報を公開しています。

稲敷広域消防女子HP

<http://www.inashiki-kouiki.jp/active/>



【平成28年度女性限定職場体験（放水体験）】



【12名の女性消防吏員（令和2年撮影）】



【平成28年度女性限定職場体験】



【女性消防吏員座談会】

4. 女性活躍推進への今後の取組と課題等

女性限定の職場体験、女性専用施設の整備、HPでの情報発信など継続的に実施していく予定です。また、女性専用の被服の導入など、職員の意見を参考に改善していきたいと考えています。そして、令和5年度中には、男女ともに働きやすい新庁舎が整備される予定です。

5. 女性消防吏員の声

私は、警防隊所属の女性消防吏員として採用され7年目を迎えました。大型自動車免許、2級小型船舶、特殊小型船舶や普通自動二輪免許など様々な資格を取得し、消防車の運転や救急隊など最前線で活動するなか、女性ならではの観点や気遣いで安心感を与えられるよう心がけています。「消防人」の一員としてどのような災害にも対応でき、仲間とともに必要不可欠な存在になれるようこれからも日々訓練に励んでいきます。



【平成27年度採用跡邊副士長】

ちょうせいぐん し
【千葉県】 長生郡市広域市町村圏組合消防本部



○管轄区域:千葉県茂原市、一宮町、
睦沢町、長生村、白子町、
長柄町、長南町
(1市5町1村)

○管轄人口:146,570人

○消防吏員数:231人

(うち女性2人・女性比率0.9%)

いずれも令和3年4月1日現在

1. 管内の特徴

当消防本部は、茂原市、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町の1市5町1村で構成され、人口約15万人、面積372km²、東西15km、南北15kmに及び、房総半島のほぼ中央に位置する、太平洋に面した自然豊かな地域であります。

近年は、平成25年4月27日首都圏中央連絡自動車道が開通し、横浜・川崎方面と千葉・東京方面とのアクセスが格段に向上し、広域ネットワークが形成され、海水浴場や広大で緑豊かなゴルフ場、テニス施設といったレジャースポーツの利用者も増加し、首都圏の近郊型レクリエーション地域として人気を集めております。茂原市では、春になると「ソメイヨシノ」や「里桜」など約2,850本もの桜が咲き誇る日本さくら名所100選にも選ばれた茂原公園の「桜まつり」、夏には3日間におよぶ関東屈指の「七夕祭り」も開催され、中でも「もばら阿波おどり」「YOSAKOI鳴子おどり」「鼓笛隊パレード」は圧巻で、多くの人出で賑わいをみせます。また、一宮町の釣ヶ崎海岸は、日本有数のサーフポイントであり多くのサーファーが訪れる中、2020東京オリンピックではサーフィン競技が開

催され、益々盛り上がりを見せております。

2. 女性活躍の経緯

昭和46年の広域消防発足以来、約40年間女性消防吏員の採用試験の受験者はおりましたが、採用にいたりませんでした。当消防本部初となる女性消防吏員は平成24年4月に採用となり、その後平成28年4月に1名採用となり、現在は2名の女性消防吏員が活躍しております。

施設面においては、初の女性消防吏員採用の際に、消防本部庁舎に女性専用トイレ、更衣室を設置しましたが、各消防署・分署には施設がありませんでした。分署庁舎の移転建設計画が進められていたこともあり、女性専用施設について検討することとなりました。

平成29年に分署庁舎が移転し新規に開署、この新庁舎には女性専用の独立した区画として仮眠室、トイレ、浴室等が設置されました。専用スペースの設置により、女性消防吏員の活躍の場が広がり、現在2名は分署に勤務し警防隊及び救急隊として活躍しております。



女性専用スペース

3. 女性活躍推進に向けた取組

(1) 女性のための職場体験の開催

採用試験受験者に限らず、消防という職業に興味を持ってもらうための取組として、当消防本部で活躍する女性消防吏員が企画立案し、説明会、庁舎見学、車両見学、防火衣の着装や放水体験、座談会などを実施する、「女性のための職場体験会」を平成29年より開催しております。消防本部ホームページへの掲載、近隣の高校や千葉県内の大学・専門学校等にパンフレットを送付するなどして参加者を募集し、多くの女性の方々に参加していただいております。年々参加者も増加しています。参加していただいた方々には、女性吏員が廃棄消防ホ

ースで製作したコインケースをプレゼントしています。



座談会の様子

(2) 消防大学校への入校

消防大学校で開催された、女性活躍推進コースへ女性消防吏員1名が令和2年度に入校いたしました。女性消防吏員のキャリア形成の支援、職域拡大を目的として開催されており、幹部候補生としての知識及び能力を修得してきました。入校した女性消防吏員は、研修後に「家庭でも使えるコミュニケーションと効果的な教育」と題し、全職員を対象とした研修会を各所属において開催しました。研修会終了後には、研修内容だけでなく、女性消防吏員との接し方や疑問点など率直に意見交換を実施しました。

4. 女性活躍推進への今後の取組と課題等

令和3年4月現在、当消防本部の女性消防吏員の割合は0.9%であり令和7年度末までの目標を達成するには、採用希望者の増加を図ることが最重要課題となります。消防の仕事の魅力について、様々な年齢層の女性に対しPRを実施していくことが必要であると考えており、若年層への女性消防吏員の活躍紹介などを検討しています。

また、今後も庁舎建設や庁舎の改修を計

画しており、現在1署しかない女性が当直できる女性専用スペースを増設し、女性消防吏員の配置が偏らないよう検討しています。

今後は、妊娠・出産・子育てなど多くのライフワークイベントによる働き方の変化に対応できるような体制の確立、休暇を取得した代替職員の確保等について女性が安心して働き続けられるような環境づくりに取り組んでまいります。

5. 女性消防吏員の声

幼い頃、保育園に消防訓練のために来た消防士の姿に惹かれ、消防吏員になることを目指しました。しかし、当時は女性消防吏員の数は少なく、火災現場で活動する女性隊員はほとんどいませんでした。高校生のとき、救急隊員として働く女性消防吏員の存在を知り、救急救命士の資格取得を目指しました。現在は、救急隊だけでなく消防隊として出動することもあり、当消防本部の女性消防吏員の活躍の場が増えつつあります。今後は女性だからという枠にとらわれず、様々な業務に携わり、女性消防吏員の認知度を高めて行きたいと考えています。



6. メッセージ

当消防本部で開催している「女性のための職場体験」は、女性の採用試験受験者の増加を目指しています。体験中は、参加者と職員との距離も近く、和気あいあいとした雰囲気で行われております。最近では、参加者の中で採用試験に応募していただいた方もいました。今後は「女性のための職場体験」を継続しながら、幅広い年齢層の方々にアピールするための出張説明会の開催に向けての準備など、少しでも女性の採用希望者が増加するように取り組みを進めていきます。

女性消防吏員の活躍は、住民サービスの幅を広げていくことや、消防業務に新しい視点を加え消防本部全体の意識向上、職場の活性化にもつながると期待を寄せています。

初めての女性消防吏員の採用当初はソフト、ハード面で様々な課題が挙がっていましたが、職員全体で様々な模索を行いながら、諸課題を整理検討してきました。さらに今後、女性消防吏員の活躍の場を広げるために見えてくる新たな課題や問題点に柔軟に対応し、女性も働きやすく、ワークライフバランスの整った職場環境作りに向け取り組んでいきます。

【千葉県】 かしわし 柏市消防局



○管轄区域：千葉県柏市

○管轄人口：434,734人

○消防吏員数：484人

(うち女性24人・女性比率5.0%)

いずれも令和3年4月1日現在

1. 管内の特徴

柏市は、千葉県の北西部に位置し面積114.74km²、人口約43万人を擁す中核市です。市内には、都心から延びるJR常磐線等3路線がある他、2つの国道、常磐自動車道が通り、交通の要衝となっています。その高い利便性から、都心のベッドタウンとしての性質をはじめ柏駅周辺は商業集積により賑わっています。柏の葉地区では、新産業の創出をはじめ、東京大学、千葉大学を中心とした先進的な学術の都市として注目されています。

現在、柏市消防局は、1本部・7課・4署・7分署で組織し、職員数484名（うち再任用職員27名）となっています。

2. 女性活躍の経緯

本市は、昭和46年に3名の女性消防吏員を採用したことから始まり、女性の深夜業規制が解除されたことで平成11年には指令管制員2名を配置、24時間勤務体制の業務開始となりました。平成16年には女性救急救命士を採用し、平成29年3月には初めて消防監を含む女性消防吏員が定年退職を迎え、これまで6名が勇退、現在24名の女性消防吏員が在籍しています。

3. 女性活躍推進に向けた取組

(1) にじいろ救命女子の結成

平成27年9月に「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」が公布され、当局では女性活躍を推進するため、女性職員、消防局及び市長部局の人事担当課、企画担当課、広報担当課が参加し女性職員の現状、課題や対応策を検討する会議を行いました。その中で、「消防で働く女性の存在を積極的に伝えたい」、「女性でもやりがいを感じ活躍できる職業であることを伝え仲間を増やしたい」という結論に至り、平成30年3月3日に女性職員が自ら立ち上がり発足したチームが「にじいろ救命女子」です。



《発足当時のメンバー》

(2) 子育て救急講演会

「にじいろ救命女子」は、育児における不安を減らすため、市こども部や保健所とともに乳幼児の救急に関する普及啓発を行っています。普段から利用している近隣センター等に子ども連れで集まり、短時間の講座を開催することで参加しやすい環境づくりを心がけています。応急手当等の必要性を訴える一方で、少人数制のため参加者から気軽な意見や質問をいただき、市民の方々の貴重な声を聞く機会にもなっています。女性職員ならではの視点で、生々しい体験談をお話しすると大変興味を持っていただき、子育てイベント等への「にじいろ救命女子」の参加要望が絶えません。



《講演会の様子》

(3) ホームページ、ブログで見える化

消防局のホームページに「にじいろ救命女子」が自ら運営するサイト（図1）を設けています。月に一度更新しているブログ「にじいろ通信」は、子育てに奮闘しながら業務に励む女性職員の日常生活を紹介するなど女性消防吏員獲得に向けた情報や市民の方々に知っていただきたい情報を掲載しています。市の公式LINEやTwitterも利用し、若者の視点に合わせて情報の発信に努めています。また、見える化を行うことで、女性消防吏員の活躍についても市民の理解が得られるよう取り組んでいます。



図1 にじいろ救命女子専用サイト

(4) 女性割合増加・PR

「にじいろ救命女子」では、活動の班分けを行い「女性割合増加・PR班」を設けています。女性採用に向けた効果的な対策を検討し、学生へのアンケート実施、ポスター（図2）やリーフレット、広報用バナー作りを行っています。また、市内小・中・高等学校、専門学校、大学等の「職業説明会」に参加し、女性職員から職業の魅力を伝えています。



図2 女性活躍PRポスター

(5) キャリアパス・資機材整備

一方で「キャリアパス・資機材整備班」では、現在、全職員を対象に大規模災害時における緊急参集に関する実体験調査を行い、女性を含めた全職員にとってどのような支援策が必要なのかを把握し対応策を検

討しています。子育てや介護等のライフステージにより参集が難しい時に免除が受けられるよう、参集マニュアルの改正に向け申告書の作成など主管課へ提案を行っています。また、女性職員が現場活動を行う上で活動をサポートできる資機材の導入を検討するため、先行市などへの視察も積極的に行っています。



《先進市への資機材視察》

(6) 施設整備

全12消防庁舎のうち10施設で女性も交替制勤務が行えるようになってきました。「にじいろ救命女子」の活動は、市民、市議会、市長部局にも理解をいただき応援していただく声が多く、特定財源（特別交付税）を活用することなどにより、施設の整備を積極的に進めています。



《女性用シャワー室、脱衣所》

4. 女性活躍推進への今後の取組と課題等

今後も優秀な人材確保のため、時代に即した効果的なPR方法により消防も「女性が活躍し働ける場である」というイメージを広めていく必要があります。また、単に女性職員の割合を増加させることだけではなく、職員一人一人のライフステージ等に応じた対応策を丁寧に打ち出し、職員がモチベーションを保ったまま意欲的に業務に専念できるよう組織として取り組んでいく必要があります。特に、当局では今後出産と子育てを控える職員が多いため、復職支援サポートや緊急参集時の支援策については、引き続き早急に取り組んでまいります。

5. 女性消防吏員の声

平成16年度採用の女性消防吏員の感想を紹介します。



『入庁間もない頃は、男性と同じように現場活動が行えるようにとがむしゃらでした。経験を重ねる中で、男性と全く同じように活動出来なくても女性の資質や個人の特性を活かすことで市民の方々にプラスに働くこともあるのだとわかりました。現在は、家庭と仕事との調整に追われる毎日ですが、女性活躍に向けて市を挙げて様々な事業に取り組んでいただいています。今年

度は日勤救急隊として業務させていただき、安定した子育ての時間が確保され充実した日々となっています。』

6. メッセージ

消防分野でも、女性をはじめ多種多様な環境に置かれ様々な事情を抱える職員が、思う存分仕事に情熱を注ぎ可能性を開拓し挑戦できる環境を作ることが、組織の安定と成長につながることでしょう。当市では、今後も組織が一丸となり「にじいろ救命女子」の活動を通じて課題解決に取り組み、また市民サービス向上に向けて一步一步踏み出し地盤を固めてまいります。

【神奈川県】 おいそまち 大磯町消防本部



○管轄区域：神奈川県大磯町

○管轄人口：31,096人

○消防吏員数：47人
(うち女性4人・女性比率8.5%)

いずれも令和3年4月1日現在

※本稿は、平成30年度「消防庁女性活躍ガイドブック」（総務省消防庁HP）と併せてご覧ください。

1. 管内の特徴

大磯町は、東海道五十三次の8番目の宿場町として栄え、相模湾や高麗山、鷹取山などの豊かな自然が暮らしの場に近接しており、湘南発祥の地として古くから自然・歴史・文化と魅力のある町として発展してきました。かつて、明治期に我が国の近代化に貢献した伊藤博文、大隈重信をはじめ、吉田茂などの歴代首相8名が邸宅や別荘を構え、近年では、再建された「吉田茂邸」、国との連携の下、整備された「明治記念大磯庭園」、港には町内でとれた農水産物を港の風景を楽しみながら食べられるレストラン「OISO CONNECT」の開設により多くの人で賑わいをみせています。

2. 女性活躍の経緯

当消防本部は、昭和43年に消防本部を発足して以来、約50年間女性消防吏員の採用はなく、庁舎も女性用施設はなにもない状態でした。

平成29年度に増加する救急需要、消防事務への対応、警防活動の充実強化を図るため職員定数を50人に増員し、翌年、当消防本部初となる女性消防吏員2名の採用及び

庁舎の一部を女性専用施設への整備改修を行いました。令和3年度には新たに女性消防吏員2名を採用し女性活躍推進に向けて取り組んでおります。

3. 女性活躍推進に向けた取組

(1) 広報誌によるPR

毎月刊行される「広報おいそ」にて女性消防吏員の特集を掲載し、実際にどのような業務に就くかを紹介し、男性だけの職業と思われがちなイメージですが、広報誌を通じて消防の業務を伝えています。当消防本部は兼務で活動していますので、救急救命士でも火災出場指令が入れば、火災出場し放水することもあります。女性消防吏員も同様です。日頃の火災・救急・救助訓練の様子なども載せ、女性消防吏員の認知度向上、時代のニーズに対応する取組をしています。

(2) 女性専用施設の整備

平成30年度の女性消防吏員初採用に伴い、消防庁舎の一部を女性専用区画へと改修しました。女性専用の浴室、更衣室、ト



イレ、洗濯機、仮眠室を備え、1日に2名の女性消防吏員が当直勤務できます。今後の女性活躍推進に向け、環境を整え勤務しやすい職場づくりを目指しています。

(3) 救急隊機関員として活躍



当消防本部初採用となった女性消防吏員は現在では、救急隊の機関員として活躍しています。男性消防吏員と同様に機関員講習、操縦訓練等の試験をクリアし、救急車を緊急走行させて災害出場しています。先にも述べたように、当消防本部は兼務で災害対応等を行っていますので、女性だから事務職というような事はなく、ひとりの隊員として災害の最前線で活躍しています。

4. 女性活躍推進への今後の取組と課題等

当消防本部の女性消防吏員比率は8%を超え、ひとりの女性消防吏員が業務へ占める割合も増えてきています。そのため、妊娠・出産・子育てなどのライフイベントによる働き方の変化に柔軟に対応し、長く安心して働くことができる職場づくりが求められます。女性消防吏員には、変化するライフスタイルに合わせて、「今できる業務」を確実に行ってもらい、男性消防吏員には「理解」と「臨機応変」に業務に就いてもらえるように取組んでいます。

5. 女性消防吏員の声

大磯町では他の消防本部とは違い、兼務隊での勤務をしているため救急現場だけではなく、火災現場や救助現場にも出動しています。そのため様々な知識や技術、体力も必要となり大変ですが、その分やりがいもあると感じています。

男性と比べると女性の方が体力や腕力は劣りますが、女性にしかできない気遣いや、女性消防士がいることで傷病者に安心感を与えることができると感じています。

実際に「女性の方がいてくれて良かった。」と言って頂いた時は、とても嬉しくやりがいを感じました。

女性消防士が増え、見かける機会も以前よりも多くなってきたとは思いますが、まだ男性の職場というイメージが強く、「女性の消防士さんですか？」と驚かれることも多くあります。

男性・女性と性差なく、町民の方々が安心して暮らせるまちづくりに貢献していきたいと思っています。



6. メッセージ

救急現場では、「女性隊員がいて良かった。」などの声が傷病者側、男性消防吏員側双方から聞くこともあり、とても重宝される存在となっています。元々、男性しかいなかった消防行政に女性が加わるということは、住民サービスの幅を広げ、新たな視点で業務に取り組める期待しかありません。

女性消防吏員を採用することには、課題や検討すべき事項が多くありますが、消防行政が住民サービスの一環であることを考慮すると、とても有効であると思います。今後は、性差なく適材適所に配置され、男女それぞれの持ち味を発揮できる職場づくりを目指していきたいです。



【静岡県】 すんとう い ず 駿東伊豆消防本部



○管轄区域：静岡県沼津市、伊東市、伊豆市、伊豆の国市、東伊豆町、函南町及び清水町（4市3町）

○管轄人口：418,576人

○消防吏員数：625人

（うち女性18人・女性比率2.9%）

いずれも令和3年4月1日現在

1. 管内の特徴

駿東伊豆消防本部は、富士山を望む静岡県東部の伊豆半島北側を管轄しています。

沼津市、伊東市、伊豆市、伊豆の国市、東伊豆町、函南町及び清水町の4市3町で構成された一部事務組合であり、総面積921.43km²の広大な管内に1本部8消防署3分署7出張所を配置し、地域住民の安全・安心を守っています。

首都から100kmの圏内に位置し、東は相模灘、西は駿河湾に面しており、天城山を源に持つ狩野川が縦断し、世界遺産の韮山反射炉や日本屈指の温泉地を数多く持つ豊かな自然環境と温暖な気候に恵まれた地域です。

2. 女性活躍の経緯

本消防本部における女性消防吏員は、旧沼津市消防本部において平成15年に初めて2人採用されました。以降、女性消防吏員は年々少しずつ増加し、令和3年4月1日現在で18人が本部事務のほか、警防隊や救急隊などの業務で活躍しています。

平成28年には初の女性救急隊長、令和3年には初の女性水難救助隊員が誕生し、徐々に職域も拡大してきています。

また、妊娠・出産を経て、子育てをしながら勤務している女性もおり、産休中や妊娠中の女性も増えてきている状況です。

女性消防吏員の割合は約3%と、まだまだ少ない状況ですが、性別にかかわらず、能力と適正に応じた採用や人事配置を目指し、継続して女性消防吏員の活躍推進に取り組んでいます。

3. 女性活躍推進に向けた取組

(1) 「女性消防士ガイドブック」の作成

女性消防士を志す方にその活躍を知っていただくため、当消防本部の女性消防吏員が意見を寄せ合い、「女性消防士ガイドブック」を作成し、ホームページ上で公開しています。女性消防士の活躍を紹介するほか、福利厚生や女性消防士と働く男性消防士へのインタビュー等の内容を掲載しています。



(2)女性キャリアアップ形成に向けた研修会の派遣

女性のキャリアアップ形成に向け、「消防大学校 女性活躍推進コース」や「市町職員広域研修 女性職員キャリアアップ研修」などに積極的に女性消防吏員を派遣しています。

(3)「女性消防吏員活躍推進のための座談会」の開催

女性消防吏員の声を拾うため、本消防本部の全女性消防吏員が集まる「女性消防吏員活躍推進のための座談会」を開催し、女性が勤務しやすい職場環境、家庭や職場での悩み、不安に思っていることなどについて積極的に意見を交換し、女性消防吏員の声が届く職場風土づくりに努めています。

また、前述の女性キャリアアップ形成に係る研修を受講した職員が研修内容をフィードバックすることで、有効な情報を皆で共有しています。



(4)女性用施設の拡充

能力と適正に応じた人事配置を可能とするため、女性用施設の拡充に努めており、令和4年度には、沼津南消防署に新たに女性用当直施設を整備することが決定しています。



(5)マタニティ執務服の導入

本消防本部では、女性消防吏員が妊娠し、制服の着用が困難になった場合でも、来庁者が消防吏員であることがわかるよう、階級章を装着できるマタニティ執務服を平成28年から導入しています。お腹が大きくなってきても、着用する服に迷うことなく、来庁者も安心して相談等を行うことができます。

また、今後はデザイン等についても、女性消防吏員の中で話し合い、検討していく予定です。



(6)採用試験の工夫

本消防本部の職員採用試験における体力

試験では、消防吏員として必要な体力の有無について、懸垂、立ち幅跳び、腕立て伏せ及び5分間走の測定を行っていますが、体力的に劣ってしまう女性でも受験しやすくより優秀な人材を逃さず確保できるよう、女性は懸垂を斜懸垂で、腕立て伏せは膝付きの状態で行い、男性と女性で評価区分を分けて実施しています。

(7) ハラスメント対策

本消防本部では、相談窓口・ハラスメント等通報窓口を設置し、ハラスメント等の防止を図っています。

職員全員に周知するためリーフレットを作成し全署所に掲示するとともに、相談・受付者には男性と女性を置き、全ての職員が気軽に相談できる体制を整えています。

4. 女性活躍推進への今後の取組と課題等

(1) 更なる職域拡大に向けた検討強化

本消防本部では様々な分野で女性が活躍していますが、現在でも女性が勤務したことのない分野もあることから、今後も更なる職域拡大に向け、より効果的な人材育成や女性が新たな分野に進む上で解決しなければならない課題についての検討を進めていきます。

(2) 女性特有のライフイベントに対する取組強化

すでに妊娠・出産を経て、子育てしながら勤める女性消防吏員もおりますが、今後女性消防吏員が安心して女性特有のライフイベントを迎えられるよう、妊娠後の勤務場所の検討や産前産後休暇取得時及び復職時のフォロー等、取組を強化していきます。

5. 女性消防吏員の声

消防吏員の中には筋肉自慢の職員もいれば、小柄な職員、体育会系の部活に所属したことのない職員もいます。しかし、「一つでも多くの命を救いたい。守りたい。」という想いは全員同じで、そこに男女の違いはありません。

また、消防には様々な業務があることから、女性も個人の能力を生かして、活躍することができます。女性消防吏員の活躍推進は、性別に関わらず個々の個性や能力を生かすことにつながり、個々が抱える育児や介護などの問題を組織全体で支え合うきっかけになると思います。

本消防本部において女性消防吏員はまだ少ないですが、さらに女性が活躍し、全職員が働きやすい職場環境につながるよう、みんなで話し合い、今後も様々なことに挑戦していきたいと考えています。



6. メッセージ

本消防本部管内は雄大な富士山を望む温暖な地域で、山もあり海もあり、東京オリンピック・パラリンピック自転車競技が開催された自転車の聖地でもあります。美味しい魚を食べるもよし、温泉にほっこり浸かるもよし、自然あふれる環境を求めて県外出身の女性消防吏員も多く勤めています。

本消防本部は、今後も女性消防吏員を積

極的に採用していきます。生まれ育ったまちや大切な人を守りたい、人の役に立てるような仕事がしたい、まっすぐな気持ちを持つ方、ぜひ、私たちと一緒に働きましょう。

【愛知県】



○県内人口：7,522,484人

○県内消防本部数：34

○県内消防吏員数：8,354人
(うち女性221人・女性比率2.6%)

いずれも令和3年4月1日現在

1. 愛知県の消防体制

愛知県の消防体制は、単独消防26、組合・広域連合消防8の合計34消防本部（局）から成り、66消防署、151出張所、消防吏員数8,354人、平均年齢38.3歳（令和3年4月1日現在）となっています。

33消防本部（局）に221人の女性消防吏員が在職していますが、全消防吏員に占める女性比率は2.6%で、全国比率3.2%を下回っています。

2. 説明会開催の契機

女性消防吏員の採用に向けた取り組みについては、各消防本部（局）において、積極的に採用ガイダンスの開催やホームページ・SNSを活用した広報、ポスター及びPR動画を作成する等、工夫を凝らし実施しています。

その結果、女性消防吏員数は年々増加し、徐々に効果が表れていますが、全体としては依然として少数に留まります。この現状を消防本部（局）のみではなく、愛知県全体の課題として捉え、何が問題となっているのかを改めて見直すことが重要であると考えました。

採用の際、女性消防吏員を募集しても、申込者が少なく、ゼロという所属もあります。採用する側は、女性消防吏員の受け入れ体制が出来ていても、それが広く周知されていないのではないかという事です。これは、まだまだ女性消防吏員の認知度が低いという事であり、まずは知ってもらう事が重要であると考えました。

そこで、愛知県全体で女性消防吏員登用の底上げを図るため、今年度初めて県と消防本部（局）が説明会を企画しました。

3. 考慮した点

説明会の参加対象は、これから就職活動に臨む学生等はもちろんの事、女性消防吏員のことを早くから知ってもらうため、中学生以上と設定しました。また、保護者の参加も可とし、女性が働ける職場であることを知ってもらうことで、子どもが職業選択する際の大きな後押しになると考えました。

参加者募集のために作成したチラシには、参加者が容易に申込み出来るようQRコードを掲載しました。作成した募集チラシ

は、中・高・専門学校や大学の進路指導、就職支援の方を通じて周知するとともに、消防本部（局）の協力のもと、ホームページやSNSで積極的に発信していただき、参加者は28名（うち保護者等5名）となりました。



<参加募集チラシ>

説明会に協力してもらう消防吏員には、あらかじめ、普段業務で着用している警防服や救急服、制服での対応を依頼しました。参加者側からみると、制服を着用した消防吏員は「カッコ良い」、「私もいつかあの制服を着て働きたい」と、より身近に消防を感じ、パンフレットやホームページで伝える以上の効果が得られると考えたからです。また、事前に消防本部（局）のPRや女性参加者に向けたメッセージ等を掲載した、「紹介シート」を作成してもらい、説明会参加者へ配付しました。

説明会は、下記のとおり構成としました。

- (1) 協力消防本部（局）による自己紹介
- (2) 消防の仕事及び消防学校の概要説明
- (3) 消防本部（局）ごとに設置したブースにおけるガイダンス

(4) 説明会参加者と女性消防吏員の座談会

～参加消防本部（局）の紹介～



令和3年4月1日現在

消防本部名	豊橋市消防本部
本部所在地	豊橋市今橋町1番地
消防署所の数	本署2、分署2、出張所4 計8署所
消防吏員数（うち女性）	337名（うち女性12名） ※ほか育児休業中2名、他部署等派遣中2名
女性消防吏員年齢	10代1名、20代5名、30代以上10名
救急救命士数（うち女性）	67名（うち女性6名）※ほか育児休業中1名
女性消防吏員の業務内容	警防業務、救急業務、予防業務、愛知県派遣

○豊橋市消防本部では、女性が輝く職場を目指し、女性が働きやすい環境づくりとして、女性の職域拡大のための職場体験研修制度、女性消防士が消防業務を継続していくための支援などを積極的に実施しています。



女性消防士募集



女性消防職員活躍推進に関する研修会



TOYOHASHISHORO
（公式）
インスタグラム



有償レポートセミナー

<紹介シート>

前記(1)は、消防本部（局）が自己紹介やPRを行い(3)で実施する各ブースでのガイダンスの呼びかけにも繋がるようにしました。

(2)では、県が業務紹介や勤務体制、また、消防学校の教育訓練等について、紹介しました。

(3)では、(1)や事前に配付した紹介シートをもとに、説明会参加者が聞いてみたいブースを選択し、消防吏員から話を聞きました。

(4)の座談会では、女性消防吏員が消防本部（局）の枠を越え、業務紹介やQ&Aなど、働いているうえでの本音など、活きた声を発信することができました。



4. 参加者の声

説明会参加者からは下記のような感想が聞かれました。

<女性参加者>

- 性別に関係なく働けることがよく分かった。
- 女性でも働きやすい環境は整いつつあると感じた。
- 女性消防士の方に直接話を聞ける機会は珍しいので貴重な体験ができた。
- やりがいを持って働いている女性がたくさんいて、消防士になりたいと強く思った。

<保護者>

- 女性でも勤めることができることを知り驚いた。
- 現場の消防活動のイメージしかなかったが、予防業務などがあることを知れてよかった。
- はきはきとした女性消防士が多くとても魅力を感じた。

<消防本部（局）>

- 消防の仕事全般について県が説明したので、消防本部の説明に専念できて良かった。

○女性が働く上でどういったことを望んでいるか等、知ることができる。

○地域別に開催してほしい。

一部抜粋ではありますが、消防という世界で女性が働けるということを伝えられたと思います。

5. 合同開催するメリット



県と消防本部（局）が合同開催することで、説明会参加者は、一つの会場で複数の消防本部（局）から情報を得られることが最大のメリットであると考えます。

消防側としては、他の消防本部（局）の説明を見る機会でもあり、採用の手法が学べる等、意見交換の場というメリットがあります。

特に、これから女性消防吏員を採用しようと計画している、また、女性消防吏員の採用枠を設けていても申込みが少ない消防本部（局）は、そこからヒントを得ることができると考えます。

最後に、準備期間が少ない中、消防本部（局）の協力なしでは開催は実現出来ませ

んでした。コロナ禍で、多くのことが制限される中、今、私たちにできることは何かを考え、行動することは意味のあることだと考えています。小さな一歩かもしれませんが、愛知県全体が一丸となり、今後も女性消防吏員の採用を推進していきたいと考えています。

【愛媛県】 にいはまし 新居浜市消防本部



○管轄区域：愛媛県新居浜市

○管轄人口：117,439人

○消防吏員数：138人
(うち女性3人・女性比率2.2%)

いずれも令和3年4月1日現在

1. 管内の特徴

本市は四国の瀬戸内海側中央部に位置し、北側は瀬戸内海 燧灘、南側は四国山脈が連なり、標高1,500m以上の連峰が海岸部に近接しており、海と山に囲まれた扇形に広がりを見せる平野部、丘陵地及び山地からなる自然豊かなまちです。元禄4年別子銅山の開坑に始まり、住友関連企業群を中心とする臨海工業地帯を形成するなど、四国屈指の工業都市として発展を遂げています。

また、別子銅山の貴重な産業遺産が市内に数多く遺されており、特に東平地区の貯鋳庫跡は「東洋のマチュピチュ」と呼ばれ、観光地として人気が出ているほか、10月には四国三大祭りのひとつである勇壮華麗な新居浜太鼓祭りが開催され、毎年約20万人の観客を魅了しています。

2. 女性活躍の経緯

当市消防本部は、消防力及び組織機構の充実を目的として、令和元年度に消防職員定数を見直し、現在計画的な増員を推進しています。また、消防本部・北消防署庁舎を新築し、令和2年4月1日から新たに消防防災合同庁舎として供用を開始しました。旧庁舎には女性消防吏員が交代勤務を

するための必要な施設が未整備でしたが、新庁舎には交代勤務に対応できる女性専用の施設を整備しています。

女性消防吏員の採用につきましては、これまでも毎年募集していましたが、女性の受験者が少なく、採用までに至らないのが現状でした。しかしながら、令和3年度、当市初となる**女性消防吏員3名**を採用することとなり、令和4年度には更にもう1名の採用が予定され、将来的には女性消防吏員の割合5%の達成を目指しています。

3. 女性活躍推進に向けた取組

(1) 女性採用に関する広報活動

令和2年度、数多くの女性に採用試験を受験してもらうために、女性消防吏員採用に向けたリクルート活動として、市内の高等学校を訪問しPRを行いました。コロナ禍で、学校行事もままならない中でしたが、学校の避難訓練の消防立会の機会を利用して、女性消防吏員の活躍を紹介するとともに、当市においても女性消防吏員を積極的に募集中であることを全校生徒に説明しました。

また、令和4年2月13日、愛媛県消防長

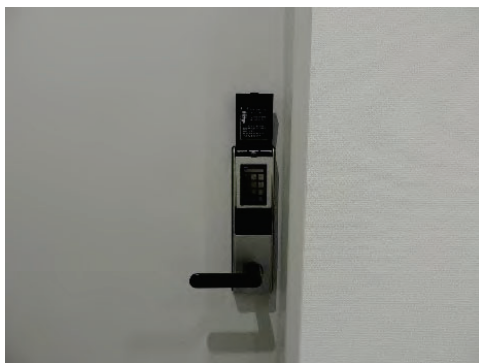
会の事業として開催された自衛隊、海上保安部、警察、消防の「4機関合同職業体験会」に参加し、各機関の女性職員がそれぞれの業務説明を行い、参加者からの質疑に回答いたしました。その中で消防に対する個別の質問についても多く寄せられ、今後の採用試験受験につながればと期待しています。

(2) 職員研修

令和3年度に女性消防吏員の採用が決定したことから、男性職員に対して研修を実施しました。研修の方法は、他市の勤務歴の異なる3名の女性消防吏員の方にアンケートに回答してもらい、その内容について聞き取りをした結果を周知しました。アンケートの内容は、職場環境・施設、訓練、現場活動、人間関係そしてハラスメントなどについてで、女性目線の忌憚のない意見をいただくことができ、男性では気づかないことが多く、大変勉強になりました。

(3) 女性専用エリアの整備

女性専用エリアは、ナンバーキーのオートロックとし、女性以外は入室できないエリアとしています。エリア内には、更衣室、仮眠室、トイレ、洗面台・浴室、洗濯乾燥機そして畳の休憩所を整備しています。仮眠室は3部屋あり1部屋3名が使用することができ、9名までの配置が可能となっています。



【オートロック】



【仮眠室】



【洗面台・浴室】

4. 女性活躍推進への今後の取組と課題等

消防職員数に対する女性消防吏員比率の目標値を5%とし、今後採用を進めていくためには、採用試験受験者数の確保が最大の課題となります。女性が活躍できる消防業務の魅力について、市内の高校などへのPRを継続するとともに、Uターンを希望する本市出身の大学生などに対して、効果的な広報を実施することが必要だと考えます。現在実施している市HP、SNSまた就職説明会に加えて、全国の取り組み事例を参考に検討していきます。

また、ライフスタイルの変化により、出産など長期休暇を取得する場合の人員確保などへの対応が、今後の新たな検討課題であると考えます。

5. 女性消防吏員の声

私は、東日本大震災をきっかけに「人の役にたちたい」と思い消防士を目指すよう

になりました。

職場では、特に体力面で不安を感じる人が多いですが、先輩方に助けて頂きながら、とても恵まれた環境で日々職務に励んでいます。

現場経験も少なく、現場で出来ることは少ないですが、女性吏員ならではの気配りや心配りなど出来ることは多くあると感じています。また、救急救命士の資格を活かし、多くの災害現場で女性ならではの目線を活かし活躍していきたいです。出来ないことに目を向けるのではなく、出来ることに目を向け全力で取り組めるよう努力していきたいです。



【令和3年度採用女性消防吏員】

6. メッセージ

まだ女性消防吏員は少ないですが、消防の業務は、女性の特性を活かして活躍できる仕事であると思います。今後も女性が増えることにより市民サービスの向上、職員の意識改革や職場の活性化などに期待しています。

今後も男女が協働できる職場環境を構築するために、様々な視点で諸課題を検討し、市民の安全と安心を守るために、女性も男性も働きがいのある開かれた職場づくりに努めます。

【福岡県】 かすやほくぶ 粕屋北部消防本部



- 管轄区域：福岡県古賀市、新宮町
(1市1町)
- 管轄人口：93,352人
- 消防吏員：102人
(うち女性1人・女性比率1.0%)
令和3年4月1日現在
- 消防吏員：104人
(うち女性2人・女性比率1.9%)
令和4年4月1日から

1. 管内の特徴

当消防本部は、福岡県の北西部に位置し、南東に犬鳴山脈、南に立花山系、玄界灘に面した西側の海岸線には白砂青松が約7kmにわたって続いており、玄界灘に浮かぶ相島は玄海国定公園の一角をなしています。

管内は古賀市、新宮町の1市1町から構成されており、古賀市は、工業団地の整備や企業誘致による産業集積地域で、県内2位の食料品製造品出荷額を誇るほか、現在は古賀駅周辺整備事業にも力を注いでいます。新宮町は、全国の住み心地ランキングで上位に入るなど注目度が高く人口が増加しており、古賀市とともに急成長を遂げて

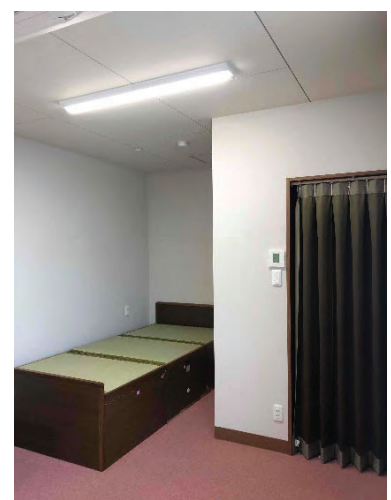
います。

管内には、九州自動車道古賀ICがあるほか、JR鹿児島本線、国道3号線、国道495号線などの主要幹線道路が走るなど、抜群の交通アクセスを誇る一方、車で数分走れば海、山、川など豊かな自然と触れ合うことができる魅力的な地域です。

2. 女性活躍の経緯

当消防本部では、令和3年度に初めて女性消防吏員1名を採用、令和4年度にも1名を採用し、消防吏員104名、うち女性消防吏員2名の編成となります。

これまで、庁舎内に仮眠室、浴室等の女



性用施設はありませんでしたが、令和3年度に女性専用の各種諸室を整備し、女性吏員2名が当直勤務できる環境を整備しました。

3. 女性活躍推進に向けた取組

(1) 採用試験における女性受験者の確保



《令和3年度職員採用試験ポスター》



《KASUHOKU.FD Instagram》

当消防本部における女性の採用試験受験者は過去5年平均で4.5%ですが、ハード、ソフト両面で女性が働きやすい職場環境の整備を推進するとともに、女性を登用したポスターの作成やInstagram、FacebookなどSNSで情報発信を行うなど、受験者に占める女性の割合を8%以上確保できるよう努めています。

(2) 職員研修会の実施

当消防本部初の女性消防吏員の採用に伴い、今後の取り組み等の参考とするため、総務省消防庁の「女性消防吏員活躍推進アドバイザー派遣制度」を活用した職員研修会を開催しました。

講師からは、女性活躍の意義、女性消防吏員の歴史と背景、女性吏員の不安解消・お願いしたい配慮、女性活躍を妨げるもの（ハラスメント、無意識の自分に気づく）についてご講義をいただきました。参加職員からは、「余計な気遣いが本人のためにならないことに気づかされた。」、「性別関係なく、個として見ることの大切さを認識させていただいた。」、「ライフイベントや仕事と家庭の両立など女性の抱える事情を改めて知ることができた。また、様々な子育て支援があることがわかった。」などの感想があり、充実した研修となりました。

4. 女性活躍推進への今後の取組と課題等

令和4年度は女性消防吏員の増員に向けて、今後の進路について考える世代や女性の視点を取り入れるため、管内の高校と共同で職員採用ポスターの作成を計画しています。また、近隣の大学や高校、管内の中学校で職業説明会を実施し、女性でも働ける職場であることをアピールします。

あわせて、妊娠、出産、子育てなどのライフイベントによる働き方の変化にも柔軟に対応できるよう、配置への配慮や職員定数の見直し、各種制度の整備や周知を図り、職員が安心して働き続けられる環境づくりに取り組めます。

消防分野における女性の活躍は、住民サービスの向上をはじめ、多様な視点や価値観、働き方への理解、職場の活性化につながるものと大きな期待を寄せています。

5. 女性消防吏員の声

令和3年度4月から当消防本部で業務に従事している女性消防吏員の感想を紹介します。

『私が消防士を目指したのは学生の頃に火災現場や救急現場で活動されている隊員の姿を見て純粋に憧れたのがきっかけです。消防士という職業は男性ばかりで女性は体力的にもついていけないというイメージを持たれがちだと思います。私自身も採用されるまでは、「体力面でついていけるのか、役に立つ事はできるのか」と不安に感じる部分もありましたが女性消防士として勤務していくうちに女性ならではの強みを活かせる場面も多くあると思いました。

これから多くの事を経験し、現場で活躍できる隊員になりたいと思います。』



6. メッセージ

粕屋北部消防本部では風とおしがよく、男女関係なく働きやすい職場環境づくりに努めており、ハラスメント対策にも力を入れています。職場内の雰囲気はアットホームで団結力が強く、客観的な指標としてのストレスチェックの結果も驚くほど良好です。職員の仕事に対する意欲は非常に高く、日々、各種災害対応訓練や救助技術指導会に向けた訓練に集中して取り組んでいます。

今後も、職員がこの職場で働くことに誇りを持てるよう、また、ここで働きたいと熱い気持ちで受験してくれる未来の消防士が一人でも増えるよう、よりよい職場環境づくりに努めてまいります。

おおいたし
【大分県】大分市消防局



○管轄区域：大分県大分市

○管轄人口：477,676人

○消防職員数：509人

（うち女性8人・女性比率1.6%）

いずれも令和3年4月30日現在

1. 管内の特徴

大分市は、九州の東端、瀬戸内海の西端に位置し、周辺部を高崎山、九六位山（くろくいさん）、霊山（りょうぜん）、鎧ヶ岳（よろいがたけ）、樅木山（もみのきやま）などの山々が連なり、市域の半分を森林が占めるなど豊かな緑に恵まれています。

市域は東西 50.8 km、南北 24.4 km、面積 502.39 km²と九州でも有数の広い市となっており、瀬戸内海気候に属し、温暖で、自然条件に恵まれた地域です。

本市では大分市総合計画基本計画の中で、「安全・安心な暮らしの確保」を政策に掲げ、日々の業務に努めています。

2. 女性活躍推進に向けたこれまでの取り組み

大分市消防局では、令和元年に初めて採用試験受験対象年齢の女性をターゲットに、消防の仕事へ興味を持ってもらうことを目的とした「女性のための消防士体験セミナー」を開催しました。セミナーでは、防火衣を着ての放水体験、建物内の消火設備が正しく維持管理されているかを確認するクイズ形式での予防査察、消防署の施設見学、そして女性消防士との意見交換（座

談会）などを行いました。

3. コロナ禍での取り組み



令和2年の女性セミナーは新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催を中止し、令和3年についても体験型での開催が難しいと考え、別の手法での開催を検討しました。

その結果、情報化が進む現代社会の流れに沿ったWEB環境で、SNSを活用した「WEB女性セミナー」を実施する運びとなりました。

「WEB女性セミナー」の狙いは、WEB環境下で「検索ワード」として大分市消防局女性消防士などのワードがヒットしやすくなる環境を作ること、女性消防士の活

躍をPRし続けることができ、併せて大分市消防局に女性消防士の採用があるということを知っていただくところにあります。

当然のことながら、WEB環境下での開催においても、体験型と同様に、疑問、質問に答えられる対面に近い距離感になるようなSNSを選ぶ必要があり、Instagramのライブ機能を活用することに決めました。

大分市消防局では、「あなたのやさしさが強さになる仕事」というテーマを掲げ職員採用広報に取り組んでいます。

今回のWEB女性セミナー開催に向けて、2つの事前広報を行いました。

まずは女性消防士の業務内容や日常を実際に知っていただくことを目的とした、PR動画「～やさしさが強さになる仕事～」を職員自らが制作し、本市公式YouTubeサイトに公開しました。このPR動画は、普段の女性消防士の雰囲気を伝えるインタビューシーンに始まり、消防隊員、指揮・火災調査員、予防査察員、救急隊員として活躍する姿を映し、動画の終盤には親として子どもを迎えに行くという「やさしさ」をイメージした構成で制作しました。



次に、開催案内リーフレットを作製し、事前に県内の大学や、専門学校、高校を中心に開催案内を行いました。

これらの事前広報を経て、迎えたWEB

女性セミナー当日は、Instagramの視聴者数が多い土曜日の夕方を狙い、多くの方が視聴できるよう工夫を凝らし、夕方の5時から30分程度の配信を行いました。ライブ中は、終始和気あいあいとした雰囲気の中、多くの参加者から様々な質問をいただき、女性消防士ならではのエピソードを交え回答をしました。また、ライブ配信終了後には、採用試験についての案内を行うなど全国的にも例を見ない形のWEB女性セミナーとなりました。



4. 結果と今後

今回の取り組みで、Instagramを用いたライブ配信は非常に注目度が高いことが確認でき、幅広い年齢層に広げることが出来ました。

SNSを活用した広報は、ターゲットを限定することなく広く魅力的な情報を発信することができ、幅広い年齢層への広報効果も高まり、継続実施することでイメージを定着化させる契機になりえると感じました。

今後もSNSを用いた「WEB女性セミナー」の取り組みや直接参加者と触れ合うことができる体験型女性セミナーの再開に向けた準備を新型コロナウイルス感染状況に注視しながら進めていき、広く女性消防士の活躍を伝えられるよう「やさしさが強

さになる大分市消防局」を目指してまいります。

5. 女性消防士の声（2名）

(1)平成 16 年入局 消防司令

WEB女性セミナーでは、当局の女性消防士全員が参加したことで女性消防士の雰囲気伝えることができ、質問内容に応じ年齢や経験を加味した回答ができたと感じました。

ライブ配信では、対面により近い形で直接参加者との交流が持て消防士を目指す女性のリアルな声を聴くことができ、当局に興味があってもなかなか来局できない人も、気軽に参加し簡単に質問できることがSNSを活用した広報の魅力の一つであると実感でき、今後の女性消防士採用における啓発活動の参考になりました。

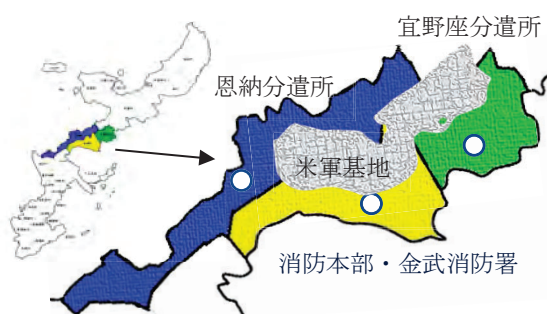


(2)平成 27 年入局 消防士長

私は入局して、今年で8年目になります。消防学校卒業後は消防隊で働き、現在では総務課の消防団担当班で勤務しています。また、仕事をする傍ら、全日本空手道連盟ナショナルチームの一員として各種大会に参加しています。仕事と空手道の両立は苦しいことも多いですが、両立への理解と温かい声援をくれる職場には本当に感謝しています。消防士としてもアスリートとしても、支えてくださる方々に恩返しができるよう日々全力で過ごしています。



【沖縄県】^{きん}金武地区消防衛生組合消防本部



○管轄区域：沖縄県金武町、恩納村、
宜野座村（1町2村）

○管轄人口：28,697人

○消防吏員数：60人
（うち女性1人・女性比率1.7%）

いずれも令和3年4月1日現在

1. 管内の特徴

金武地区消防衛生組合消防本部は、昭和53年6月組合設置運用開始しました。

沖縄本島中央部に位置し、東は太平洋側に金武町、宜野座村、西は東シナ海に面した恩納村の1町2村で構成されています。マンゴーや田芋、パイン、いちごなどの農業が盛んな金武町、宜野座村は近年プロスポーツのキャンプ地としても誘致され、恩納村は海岸全域が沖縄海岸国定公園に属しており、多くのリゾートホテルが建ち並び、年間300万人余の観光客が訪れる日本屈指のリゾート地です。また、中央に米軍基地キャンプハンセンが位置する特異な地域でもあります。

当消防本部は、1消防本部、1消防署、2分遣所で構成されており、消防吏員数60名の小規模消防本部です。日勤10名を除く大半の消防吏員が救急と警防、救助業務を兼務しており、災害の種類により分隊し車両を変えて対応する乗換え運用を行っています。

2. 女性活躍の経緯

沖縄県は平成12年に初の女性消防吏員が誕生しています。令和3年4月現在、沖縄

県内消防本部（局）消防吏員1,642名中、28名まで増員していますが、全国の女性比率3.2%に比べ1.7%と低率な理由として、100人未満の小規模消防本部が多い事が上げられます

（沖縄県内18消防本部中、12消防本部が100人未満）。

当消防本部においても、昭和53年6月組合設立後、令和3年度までの43年間女性消防吏員の採用が実現しなかった背景には、特に予算面の確保が上げられ、女性専用の施設、資器材等の整備費、現状で消防吏員自体の充足率が低いことで女性消防吏員を採用した場合の出産等ライフイベントに合わせた補填人員の確保に苦慮する懸念があり実現しませんでした。

3. 女性活躍推進に向けた取組

変革は、平成26年度内閣府沖縄北部連携促進特別振興事業により「恩納分遣所機能高度化事業」で移転新築した際、将来女性消防吏員の採用を見込み「女性専用施設」を整備したことから、平成27年消防庁次長通知もあり、採用に向け協議が動きました。

最も大きな課題は、施設整備のハード面以上に男性職員の意識の問題で「消防の現場に女性が必要か」「ただでさえ人員不足なのに」などの特に幹部職員のソフト面の意識改革が必要でした。

具体的な取り組みは、沖縄県防災危機管理課が開催する幹部・管理職向けの研修にも積極的に参加し「女性消防吏員の必要性」を職員で共有し、「女性活躍ガイドブック」を参照に同規模消防本部における女性消防吏員採用のメリットと課題を精査しました。採用試験では体力試験に女性種目を取入れ、構成3町村の理解もあり特に懸念されていた補填人員の確保も合わせて採用を実現、結果的に職員の増員となりました。



平成 27 年度機能高度化した「恩納分遣所」



女性専用仮眠室内



女性専用仮眠室内にユニットバスを整備

4. 女性活躍推進への今後の取組と課題等

消防庁の目標に掲げる職員の5%達成に向けて、当組合ホームページでの広報やPRビデオの作成、構成3町村の発刊する広報誌への掲載、デジタルサイネージ（電光掲示板）を活用した地域ならではの女性消防吏員の活躍、採用試験の広報を展開していきます。

女性消防吏員を増員した場合の補填人員の確保、施設整備等のハード面の課題、また、ハラスメント防止対策等のソフト面の懸念もあります。ハード面は、国庫補助金や地方債の活用を構成3町村との連携を図りながら、ソフト面は、令和3年8月に「消防庁女性消防吏員活躍推進アドバイザー講演会」を開催しました。今後も継続して研修への職員派遣、常に相談しやすい環境づくりとして相談窓口に所属の隊長の他、消防本部総務課付の女性会計年度任用職員を配置しました。

5. 女性消防吏員の声

私が消防吏員を目指したきっかけは、中学生の頃に訪れた消防署職場体験からで

す。危険と隣り合わせでの仕事ばかりですが、地域の方々にとって、常に必要とされる職業であること、そして消防吏員にしか救えない命がたくさんあり、多くの人々を自分の手で直接助けられるということに魅力を感じ、消防吏員を目指すようになりました。

実際の現場は、力仕事も多く知識も乏しいため、まだまだ力不足だなと感じています。

しかし、現場で「ありがとう」と一言言われるだけでこの職業に就くことができ、人の役に立つことができていることに良かったなと思っています。

これからたくさんの現場を経験していく中で、常に傷病者の立場に立って少しでも安心感を与え、頼れる女性消防吏員を目指し、日々頑張っていきたいと思っています。

6. メッセージ

組合設立43年目で初の女性消防吏員採用ということもあり不安もありますが、問題、課題は多少なりとも生じる事と理解しています。その時に職員全員で悩み、考え改善していければと思います。

まずは、女性消防吏員採用に向けて職員が強い気持ちで取り組み、実践したことが、今後の当消防本部の活性化、地域の防災力強化につながるものと期待をし、男女が共に協力し、活躍できる職場環境づくりを推進してまいります。

金武地区消防衛生組合ホームページ

<https://kinchikufd.com/>

(女性消防吏員紹介動画、当消防本部PR動画閲覧)



よぎみう
與儀美羽消防士 降下訓練

《第2章》

令和3年度モデル事業の紹介

※ モデル事業とは「令和3年度消防本部における女性消防吏員活躍推進モデル事業の委託に関する提案募集について」（令和3年3月12日付け消防消第57号消防・救急課長通知）において起案され、採択された実施事業のこと

【秋田県】 きたあきたし 北秋田市消防本部



○管轄区域:秋田県 北秋田市、
上小阿仁村 (1市1村)

○管轄人口:33,056人

○消防吏員数:95人
(うち女性0人・女性比率0.0%)

いずれも令和3年4月1日現在

1. 管内の紹介

北秋田市消防本部の所管する北秋田市及び上小阿仁村は、秋田県の北部中央に位置し、面積は県全体の約12%を占めます。県立自然公園に指定されているクマゲラの生息する森吉山麓にはブナの原生林や温泉が散在し、冬になると山頂は日本三大樹氷の一つと称される樹氷を観ることができません。南北を結ぶ秋田内陸縦貫鉄道の車窓から広がる四季折々の景色は心を和ませ、大館能代空港もあり交通の要所の地です。

また、北秋田市には令和3年7月に世界文化遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」の1つである「伊勢堂岱遺跡」もあり、今後は秋田県の観光の拠点として期待されています。

2. 事業実施に至る経緯

北秋田市消防本部は、今まで女性消防吏員の採用がありませんでしたので、女性の採用が大きな課題となっています。

また、秋田県内の13消防本部の内、まだ女性消防吏員がいないところは4消防本部で、女性職員の占める割合も約2%と、総務省消防庁が掲げる令和8年度当初までに女性職員を5%まで引き上げるという目標

にはほど遠い状況にありました。

当消防本部では、昨年度は新規採用の募集がありませんでしたが、令和3年度は退職者の補充に3名採用する予定でしたので、このモデル事業を活用し、女性消防吏員の採用に向けて特に力を入れることになりました。

まず始めに、地元の女子高校生等にも消防署が女性も働ける場所ということを知ってもらい、消防士が職業としての選択肢になるよう積極的に働きかけることにしました。

3. 具体的な取組

(1)女性消防吏員募集の看板とポスター、パンフレットの作成

募集看板とポスター、パンフレットを作成するにあたっては、市の地域おこし協力隊員にイラストレーターがいたことから、その隊員にデザイン等を依頼することにしました。

また、看板やポスター等の標語は市内の中学校・高校の生徒から募集し、採用された標語は「あなたがいることで、救える命がある」で、救助服を着た女性消防士のイ



ラストとマッチしたものが出来上がりました。看板(縦2.4m×横7.2m)は本署車庫に設置し、通行人など多くの人に女性消防吏員のことを認識してもらうことができました。

また、ポスターやパンフレットは県内の高校等に配布し、職員募集を広く呼びかけるとともに、市内の公共施設等にも掲示するなど女性消防吏員募集を広くPRすることができました。

(2) 職業説明会や職場体験会の開催

市内の高校(1校)の就職担当者と打合せし、夏休み前に女子生徒を対象に職業説明会を開催することにしましたが、残念ながら申し込みが無く、直前になって中止することになりました。

また、夏休みに消防本部内で開催した職

場体験会には、女子生徒が1名参加し、実際に救急服を着用して訓練を行うなど、消防業務への理解を深めていただきました。

(3) 女性消防吏員活躍推進アドバイザー研修会の開催



令和3年12月に女性消防吏員活躍推進に

関する研修会を開催し、当消防本部の半数以上の消防職員約60人が出席しました。講師には岩手県北上地区消防組合消防本部の小菅亜紀子氏を招いて御講演いただき、女性消防吏員の現状と課題や採用に向けた取り組みなどをアドバイスしていただきました。

4. メッセージ

職員採用試験に応募してもらうためには、消防士という職業は女性でも働き活躍することができるということを広く認知してもらうことが大切であると感じました。この地域では、まだ消防署は男性の職場で体力的にもきつくて大変だというイメージが残っていると思います。引き続き広報活動を展開しながら、職業イメージの払拭に努めたいと考えております。

また、当消防本部の本署及び分署は建物が古く、女性職員を受け入れる職場環境が十分とは言えないところもあります。令和5年度に完成予定の統合分署は、女性専用の更衣室や浴室、個別の仮眠室を備えるなど、女性にも配慮した施設となります。今後は、ソフト面でも女性が働きやすい環境整備に努めたいと思います。

そして、これからも市のホームページやSNSなどで消防本部の活動や魅力を積極的に発信し、県内だけでなく県外からの受験者も増えるよう取り組んで行きたいと考えております。

【山梨県】



○県内人口：801,992人

○県内消防本部数：10

○県内消防吏員数：1,223人
(うち女性23人・女性比率1.9%)

いずれも令和3年4月1日現在

1. 事業の実施に至る経緯

消防行政においては、女性の活躍を推進し組織の活性化と消防力の向上を推進していくことが重要であることから、県内の各消防本部において、女性消防吏員の採用や組織内での登用に取り組んできているところです。

本県では、令和3年4月1日現在、県内の女性消防吏員数は23人、女性消防吏員比率は1.9%の状況であり、女性消防吏員比率の向上が課題となっています。

そこで、本事業を山梨県が受託し、女性消防吏員の活躍の様子や、仕事の魅力や「やりがい」等について幅広く広報することにより、採用試験志願者数及び採用数増加に繋がるよう、山梨県消防長会と連携し、県全体の機運醸成を図ることとしました。

2. 具体的な取組

(1) 動画によるPR

「誰かを助けたい。その気持ちに性別は関係ない。私らしいオンリーワンの輝き方がここにある。」をコンセプトに「仕事の魅力」や「やりがい」を直感的に伝える動画となっています。

この動画に出演している3人の女性は、現在、甲府地区広域行政事務組合消防本部において活動している消防吏員の方々です。

動画は、15秒版、90秒版、10分版の3つのバージョンを作成し、1・1・9が並ぶ令和4年1月19日に公開し、次のとおりPRキャンペーンを集中的に展開しました。その結果、動画公開から約1ヶ月で、再生回数が合計で3,200回を超えるなど、PR活動の主翼を担っています。



<10分版動画のサムネイル>

【PRキャンペーン】

① 山梨県公式youtubeチャンネルやFacebook、県庁内のデジタルサイネージで動画を同日に一斉公開

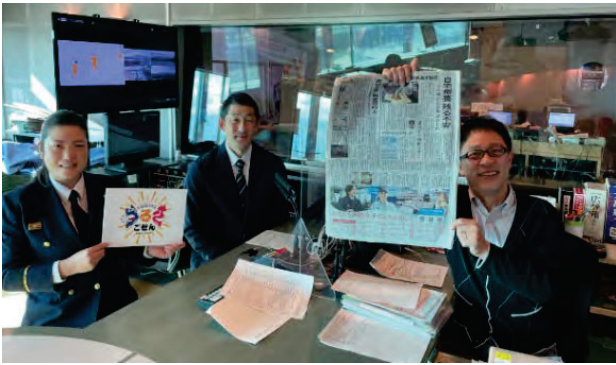
- ② 県内の全消防本部HPで動画を公開
- ③ 就職企業ガイダンスのブースで活用
- ④ テレビ番組、ラジオ番組、新聞で動画を紹介

※ テレビ番組：NHK甲府放送局、山梨放送

※ ラジオ番組：山梨放送（生出演）

※ 新聞：山梨日日新聞、読売新聞、毎日新聞

さらに、学生との就職相談で活用していただくため、県内の高等学校や大学等はもちろんのこと、県が協定を締結している首都圏の47大学等に動画を配付するなど、県境を越えたPR活動を行っています。



<ラジオ番組への生出演の様子>

(2) 新聞広告によるPR

令和4年1月19日の「119」の数字の並びにちなみ、県内の山梨日日新聞にPR動

「誰かを助けたい」その気持ちに、性別は関係ない。私らしい、オンリーワンの輝き方。私が選んだ道、山梨消防女子!

消防女子PR動画完成! こちらからご覧ください

あなたも消防女子になりませんか

お問い合わせ先	富士五湖広域行政事務組合富士五湖消防本部 管理課 管理担当 0555-22-4428	昭南市消防本部 管理課 消防総務担当 055-262-8517	上野原市消防本部 上野原市役所 総務課 人事担当 0554-42-3111
甲府地区広域行政事務組合消防本部 人事課 人事係 055-223-1249	大月市消防本部 消防課 総務担当 0554-30-0119	緑園広域行政事務組合消防本部 総務課 総務係 055-272-7631	青アールブス市消防本部 管理課 総務担当 055-282-6498
磐田市消防本部 消防課 総務担当 0554-43-2341	峡北広域行政事務組合消防本部 総務課 総務担当 0551-22-3311	奥山郡行政事務組合吉富山梨消防本部 総務課 総務係 0553-32-5021	山梨県防災局消防保安課 055-223-1430

<山梨日日新聞に掲載した広告>

画への誘導や、各消防本部の連絡先を組み入れた5段フルカラーの広告を掲載しました。

(3) 就職企業ガイダンスによるPR

県内最大の就職企業ガイダンスに出展し、就職希望者に対して、県消防保安課職員と県内消防本部の女性消防吏員が、仕事の魅力や「やりがい」をPRしました。

【出展状況】

- ・ 令和3年11月23日
- ・ " 12月9日
- ・ " 12月18日
- ・ 令和4年1月16日
- ・ " 2月15日



<就職企業ガイダンスの様子>



3. メッセージ

本事業を通じて、県全体で女性消防吏員の活躍の状況や、仕事の魅力・やりがい等について幅広くPRできたことは大きな成果となりました。県としては、今回作成した動画を県庁内のデジタルサイネージ等を積極的に活用するとともに、今後も就職企業ガイダンスに出展するなど、PR活動を継続的に実施していく予定です。

今後とも、消防本部と緊密に連携しながら女性の活躍を進め、子どもや高齢者、災害時の要配慮者など、多様な住民からの多様なニーズに対応できる消防体制の構築を図っていきたいと考えています。

最後に「火災が起きたとき」、「急病のとき」、「災害が発生したとき」、いち早く現場に駆けつけ、住民の「生命・身体・財産」を守る仕事が消防です。「誰かを助けたい。この街を守りたい。」そのような熱い気持ちをお持ちの方が、一人でも多く山梨県内の消防本部で活躍される一助となれば幸いです。

【愛媛県】^{まつやまし}松山市消防局（愛媛県消防長会事務局）



○管轄区域：愛媛県松山市

○管轄人口：508,371人

○消防吏員数：457人
（うち女性19人・女性比率4.2%）

いずれも令和3年4月1日現在

1. 管内の特徴

松山市は、美しい瀬戸内海に面し、気候は温暖で自然災害も極めて少なく、絶好の自然条件を備えています。「笑顔広がる人とまち 幸せ実感都市まつやま～一人でも多くの人を笑顔に～」をキャッチフレーズに、50万8千人の人口を有する四国最大の都市であり、松山城を中心に発展してきた歴史情緒あふれる旧城下町です。道後温泉で有名な古くからの温泉地であるとともに、俳人正岡子規や夏目漱石ゆかりの地で小説「坊っちゃん」、司馬遼太郎の歴史小説「坂の上の雲」などで知られる文学の街でもあります。

松山市消防局は、1局4署5支署2救急出張所1救急ワークステーションで構成されています。平成6年に愛媛県で初めて女性消防吏員を採用し、現在では四国の消防本部で最も多い19名（4.2%）が在職しています。これらの女性は、すべての課と署に配属されおり、10名が毎日勤務、9名が交替制勤務をしています。

また、将来の女性幹部を育成するため、消防大学校での研修や、総務省消防庁、愛媛県消防学校への派遣により、女性のキャリア形成にも力を入れています。

2. 事業の実施に至る経緯

松山市消防局の女性消防吏員の割合は4.2%ですが、愛媛県内の14本部全体で見ると女性比率は2.5%であり、全国的に見ても低い割合です。このままでは令和8年度当初までに5%の目標を達成することができないという問題があります。

また、女性消防吏員が未採用の消防本部が2本部（令和3年4月1日現在）あることと、女性を採用している消防本部でも女性消防吏員が少数の本部が多く、女性同士のコミュニケーション不足や相談相手がいないことを懸念する本部もあります。

そこで、愛媛県消防長会の事務局である松山市消防局を中心に、県内14本部、そして女性消防吏員が連携・協力して、女性受験者数の増加と女性消防吏員ゼロ本部の解消、そして女性活躍を推進するには組織全体の理解が必要となるため、男女ともに働きやすい職場環境の整備に取り組むことを目的にこの事業の実施に至りました。

3. 具体的な取組

大きく分けて、（1）女性消防吏員の増員に向けての取組と（2）みんなが働きやすい職場環境づくりの2点について取り組みまし

た。

(1) 女性消防吏員の増員に向けての取組

ア 採用PV動画の作成

消防という職業に関して多く寄せられる「一人前の消防士になるまでの育成」や「消防の業務内容」といった不安を解消し、また、広く消防の魅力を伝え、採用試験の受験者を増やすため、次のPV動画3編を作成しました。

- (ア) 消防学校編
- (イ) 現場活動編
- (ウ) 事務編

イ VR動画の作成

「消火・救助・救急」の現場活動を疑似体験することで、住民の「命を守る」という消防のやりがいを感じてもらい、就職先として考えていただけるよう次のVR動画3編を作成しました。

- (ア) 緊急出動編
- (イ) 消防救急艇編
- (ウ) 震災救助編

ウ 自衛隊・海上保安部・警察・消防の女性向け4機関合同オンライン職業説明会の開催

本説明会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のためオンラインで開催し、女性の採用を増やしたい公安職の4機関が、各機関で活躍している女性職員の認知度向上と公安職に就職を考えている女性が就職前後に「ギャップ」を感じることがないように就職後のイメージ付けを目的に説明会を

実施しました。

本会では冒頭に各機関の業務説明を行い、その後、公安職を希望する女性からよくある質問（下記の（ア）～（オ））に各機関が順番に回答しました。

- (ア) 勤務地と勤務形態について
- (イ) 一人前になるまでの訓練内容
- (ウ) 女性が活躍している部署や仕事内容
- (エ) 働き始めて良かった点や辛かった点
- (オ) 休日や出産・育児に関する休暇の制度

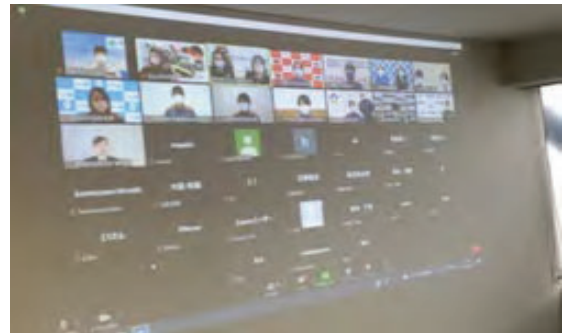
午前の部は約30名、午後の部は約20名の延べ約50名が参加し、口頭やチャットで質問を受付け回答しました。

<質問内容>

- ・今の仕事を選んだ理由
- ・救急救命士を目指しているが出産を機に体力が低下すると思う。出産後は事務で働くことは可能か
- ・高校を卒業したら県外で働いてみたいが、地元の消防署でないと難しいか
- ・出産育児休暇を取得後に職場復帰しているのか、また男性でも取得できるか
- ・女性社会人からの転職者の有無や割合について
- ・どのようなトレーニングをしていればよいか
- ・採用試験に向けた勉強の仕方について知りたい

などがあり、各機関が回答しました。

午前の部と午後の部の2部構成で、それぞ



れの終了時には各機関の採用PV動画を流しました。

(2) みんなが働きやすい職場環境づくり

ア 女性の活躍推進に関するワーキンググループ会議(あいFIRE ワーキンググループ会議)の開催

女性消防吏員を初めて採用した本部の取り組みや、その後の現状と課題などについて発表しました。また、グループトークを行い、下記の項目について女性職員と男性職員に分かれて率直な意見を出し合いました。

(ア) 長時間の災害現場で配慮してほしいことについて

女性からは簡易トイレや簡易テントの準備、相談しやすい職場環境の整備について要望があり、男性からは小隊長や中隊長など話しやすい男性職員に遠慮なく相談してほしいという意見がありました。

(イ) 異性職員に対し配慮してほしいことについて

女性からは、車両に積載している資機材の配置の考慮(重い資機材は下に、軽い資機材は上に移動)や、非常招集時に、安心して子供を預けられる場所がほしいなどの要望がありました。

その他にも、メンター制度や生理などについて話し合いました。



イ 消防庁女性消防吏員活躍推進アドバイザー研修「職員全員が成長できる職場づくり研修」

横浜市消防局の稲村講師を迎え、職員がストレスなく働き続け、組織全体が成長するために必要な配慮やハラスメント等の知識・認識を身に付けることを目的にオンラインで実施しました。

ウ 自衛隊・海上保安部・警察・消防の4機関女性職員オンライン交流会

女性職員が少ないという共通の課題をもつ公安4機関が、悩みや有効な取り組みを情報交換しました。

これをそれぞれの機関にフィードバックして環境の改善に活かすとともに、顔の見える関係をより強固にし、災害対応力の強化に繋げることを目的に実施しました。

情報交換の内容は下記のとおり

(ア) 長く働き続けるために必要なことについて

- ・仕事と家庭の両立について…両立が困難だと思える点、両立するために工夫している点
- ・人間関係について…男性とのコミュニケーションの取り方で悩んでいること
- (イ) 現場で活躍するためについて
- ・現場活動での問題…長時間の活動で工夫していること
- ・災害派遣での課題…女性隊員の派遣状況と課題



4. メッセージ

今回の事業で特に力を入れたのは、女性消防吏員数の増員とみんなが働きやすい職場環境づくりです。

女性消防吏員の増員については、同じ公安職である自衛隊、海上保安部、警察、消防の公安4機関が協力して「合同オンライン職業説明会」を実施しました。公安職は男性職員の比率が高く、体力重視でハードな現場活動の「男性の職場」というイメージを払拭する必要があります。参加者からは、「出産・育児休業後に職場復帰ができるのか」や「トレーニングの仕方」、「社会人経験者からの転職」についての質問があったので、今後は、その点をより重点的にPRし、消防の認知度向上に向けた取り組みを推進していきます。

そして、みんなが働きやすい職場環境づくりでは、管理職向けの研修を実施し、ハラスメント等の知識・認識を身に付けることができ、また、公安4機関のオンライン交流会では、仕事と家庭の両立や現場活動での問題など、女性が抱える問題について情報交換を行いました。悩み等の相談相手や相談できる環境整備についてなど、活用できる内容は積極的に取り入れていきたいと思えます。

今後も他機関と交流を深め、広い視野で将来を見据えながら、引き続き県内消防本部や他の公安機関と協力しながら取り組んでいきます。

《第3章》
女性消防吏員にかかる基礎データ

消防本部における女性消防吏員の更なる活躍に向けた取組（通知）の概要

- 報告書の提言等を踏まえ、「消防本部における女性消防吏員の更なる活躍に向けた取組の推進について（平成27年7月29日付け消防消第149号消防庁次長通知）」を各都道府県知事あてに発出し、消防本部における女性消防吏員の活躍推進のため積極的な取組を要請。

(1) 女性消防吏員の計画的な増員の確保

ア 数値目標の設定による計画的な増員

全国の消防吏員に占める女性消防吏員比率を**平成38年度**

(令和8年度)当初までに5%に引き上げる。

そのためには、

各消防本部において女性消防吏員比率を10年間で倍増

- ＋ 中核的な消防本部など一定規模以上の本部では少なくとも5%まで増加
- ＋ 女性消防吏員がゼロの本部は、これを早期に解消し、可能な限り速やかに複数の女性消防吏員を確保を目安として、消防本部が数値目標を設定すること。
※平成29年度の採用段階から少なくともこれまでの2倍～2.5倍程度以上の女性吏員採用を確保・継続

イ 女性の採用の拡大に向けた積極的な取組

女性消防吏員を増加させるためには、まずは消防を自らの職業として選択肢に含める女性を大幅に増やすことが必要。

各消防本部は、これから社会人になる年齢層の女性に対し、消防の仕事の魅力について、より積極的にPR。女性をターゲットにした説明会等を複数本部が連携して実施すること。

⇒ 消防庁として積極的に支援

(2) 適材適所を原則とした女性消防吏員の職域の拡大

各消防本部は、法令による制限を(重量物・有毒ガス)を除き、性別を理由として従事できる業務を制限することはできないことを十分理解し、意欲と適性に応じた人事配置を行うこと。

(3) ライフステージに応じた様々な配慮

- ア 仕事と家庭の両立支援
- イ 女性消防吏員が消防職務を継続していくための支援
- ウ キャリアパスイメージやロールモデルの提示
- エ 「ポジティブ・アクション」としての研修機会の拡大

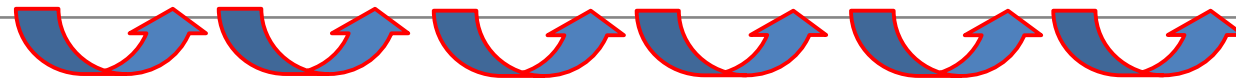
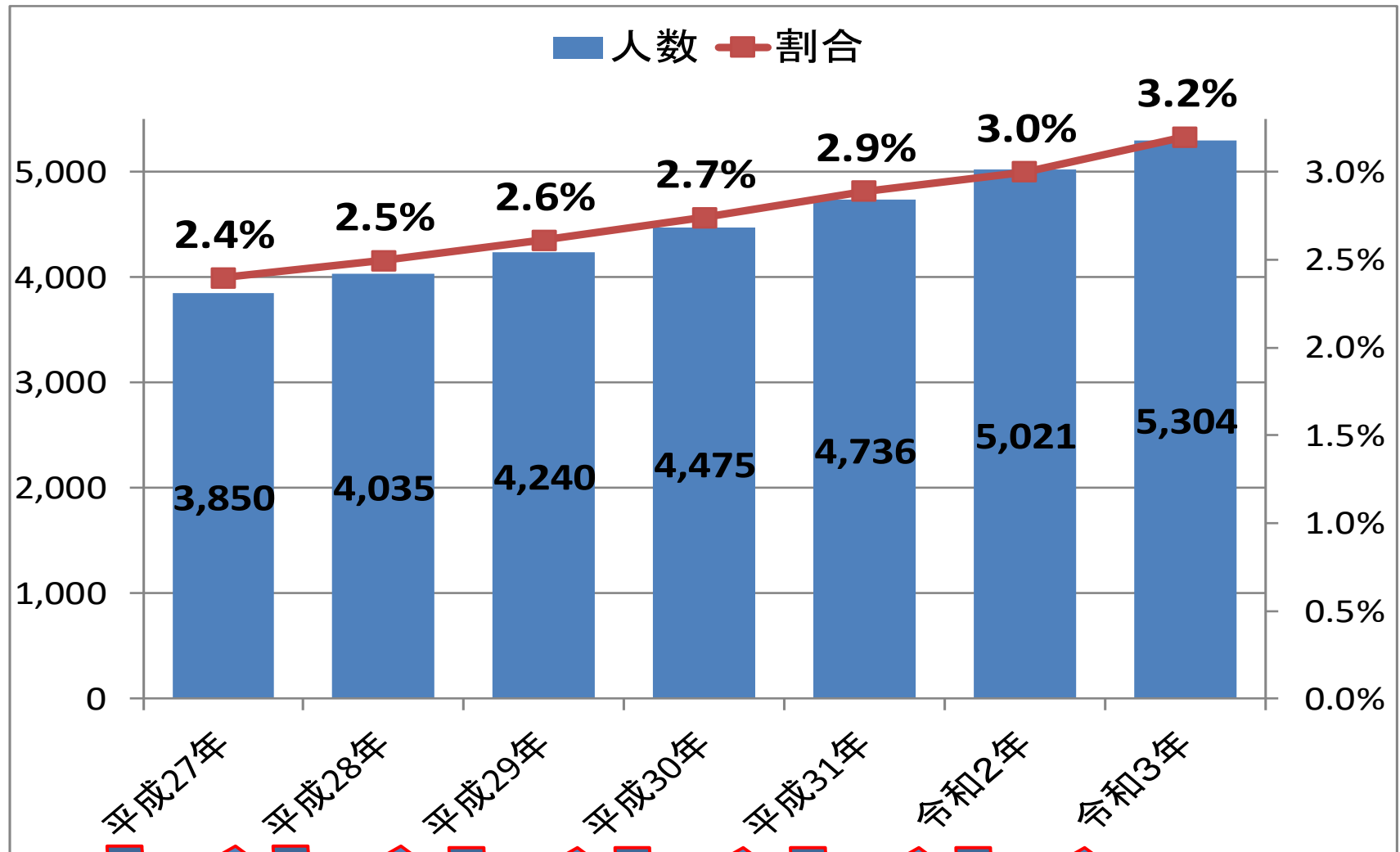
(4) 消防長等消防本部幹部職員の意識改革

各消防本部の消防長は、女性の活躍推進の意義を十分に理解し、自らの責務として各種の施策を実行すること。

(5) その他

- ア 施設・装備の改善
- イ 女性の活躍情報の「見える化」を推進等

女性消防吏員割合（令和3年4月）



増加人数 185人 205人 235人 261人 285人 283人

《参考》 女性比率

・消防吏員：**3.2%** (R3.4.1現在)

・警察官：**10.6%** (R3.4.1現在)
(地方警察官に占める女性警察官の割合)

・自衛官：**7.9%** (R2年度末現在)

・海上保安庁：**8.1%** (R3.4.1現在)

・一般行政職：**31.0%** (H30年4.1現在)
(地方公務員)

消防と同様に24時間365日現場活動を行う部隊を持つ組織と比較して低水準。

全国的全消防吏員数に占める女性割合（各年4月1日現在）

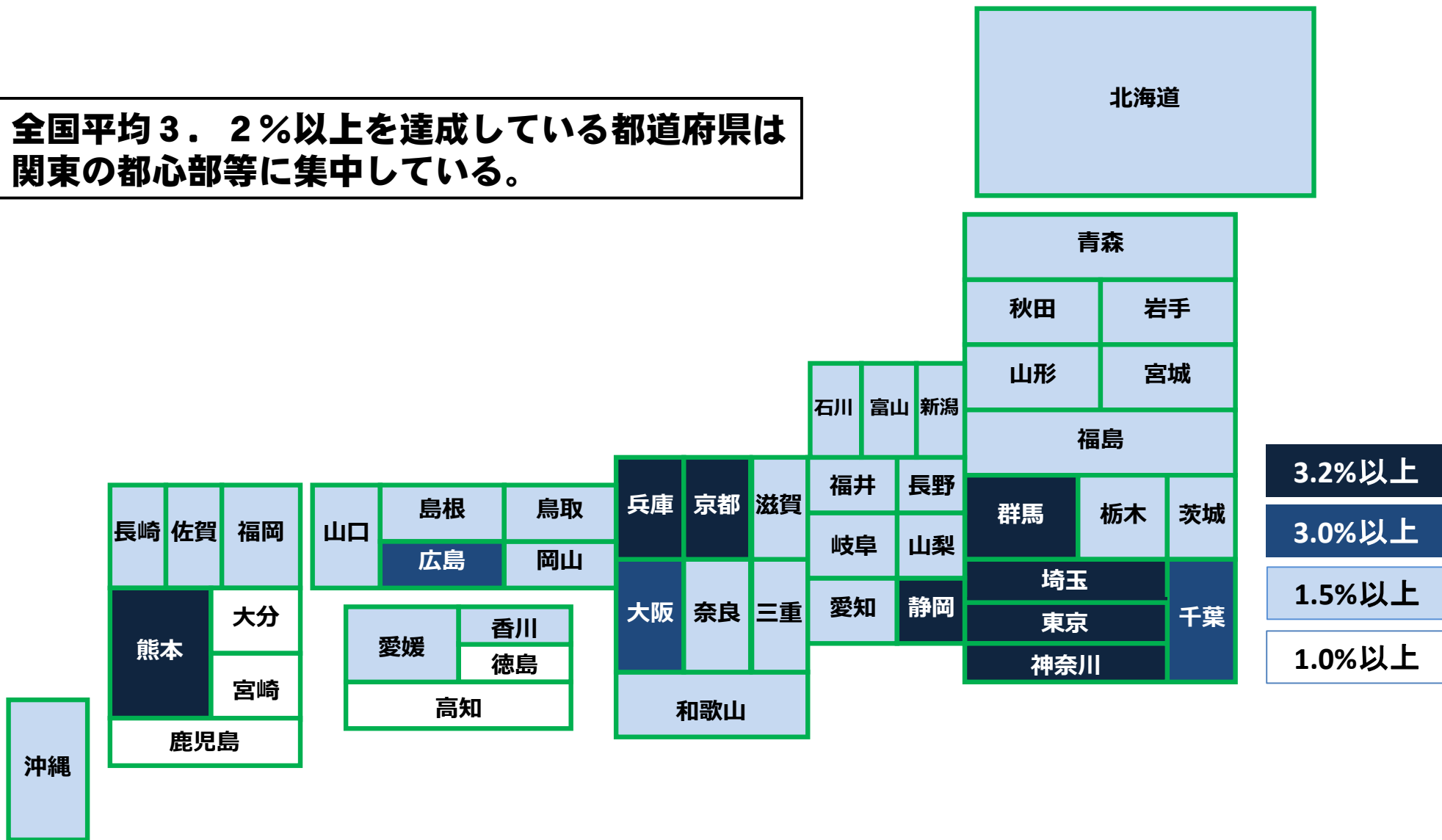
	平成31年			令和2年			令和3年		
	全数(A)	うち女性(B)	割合(B/A)	全数(A)	うち女性(B)	割合(B/A)	全数(A)	うち女性(B)	割合(B/A)
全数	163,767	4,736	2.9%	165,044	5,021	3.0%	165,463	5,304	3.2%
日勤者	34,880(21.3%)	2,480(52.4%)	7.1%	35,221(21.3%)	2,601(51.8%)	7.4%	35,296(21.3%)	2,680(50.5%)	7.4%
消防隊	71,792(43.8%)	834(17.6%)	1.2%	72,410(43.9%)	951(18.9%)	1.3%	72,679(43.9%)	1,077(20.3%)	1.5%
救急隊	29,864(18.2%)	1,034(21.8%)	3.5%	29,913(18.1%)	1,083(21.6%)	3.6%	29,962(18.1%)	1,125(21.2%)	3.8%
救助隊	14,013(8.6%)	9(0.2%)	0.1%	13,908(8.4%)	15(0.3%)	0.1%	14,024(8.5%)	15(0.3%)	0.1%
指揮隊	6,333(3.9%)	167(3.5%)	2.6%	6,644(4.0%)	161(3.2%)	2.4%	6,628(4.0%)	180(3.4%)	2.7%
その他	6,885(4.2%)	212(4.5%)	3.1%	6,948(4.2%)	210(4.2%)	3.0%	6,874(4.2%)	227(4.3%)	3.3%

注：兼務している職員は、主に従事している部隊で回答しており、他の調査と数字が合わない場合がある。

（「女性消防吏員の現況等に関する調査」の調査結果）

都道府県別女性消防吏員割合（令和3年4月）

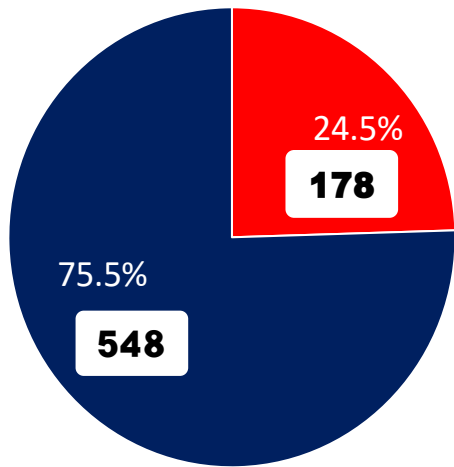
全国平均3.2%以上を達成している都道府県は関東の都心部等に集中している。



女性消防吏員「0」本部 3年間の推移

女性消防吏員「0」の消防本部は、全724消防本部中、
131本部で毎年大きく減少している。

平成31年4月1日現在
726本部中

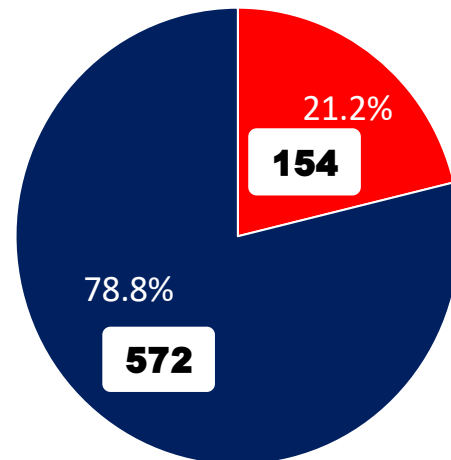


■ 女性消防吏員「0」本部
■ 女性消防吏員「1」以上本部

24本部
減少



令和2年4月1日現在
726本部中

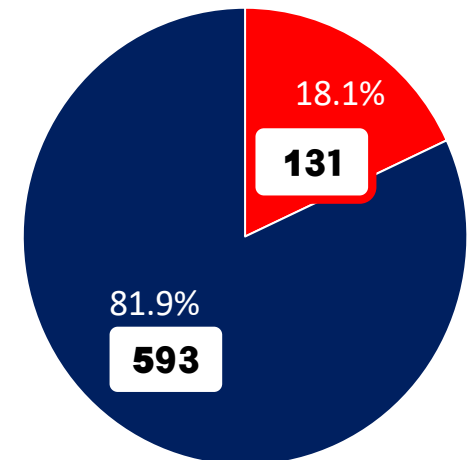


■ 女性消防吏員「0」本部
■ 女性消防吏員「1」以上本部

23本部
減少



令和3年4月1日現在
724本部中

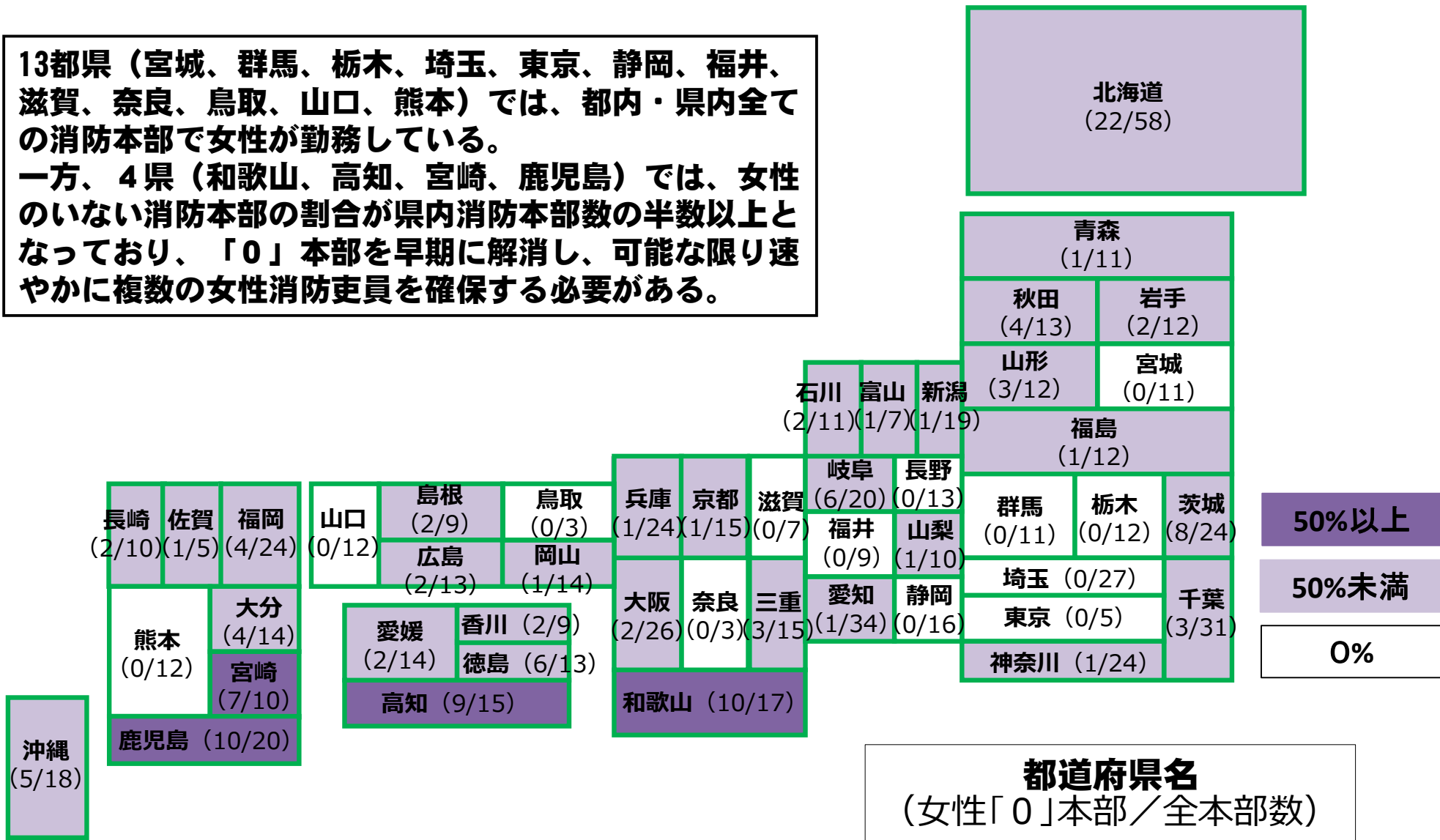


■ 女性消防吏員「0」本部
■ 女性消防吏員「1」以上本部

都道府県別女性消防吏員「0」本部の割合（令和3年4月）

13都県（宮城、群馬、栃木、埼玉、東京、静岡、福井、滋賀、奈良、鳥取、山口、熊本）では、都内・県内全ての消防本部で女性が勤務している。

一方、4県（和歌山、高知、宮崎、鹿児島）では、女性のいない消防本部の割合が県内消防本部数の半数以上となっており、「0」本部を早期に解消し、可能な限り速やかに複数の女性消防吏員を確保する必要がある。



消防吏員の採用状況等（令和3年4月）

年度	応募者			受験者			合格者			採用者		
	合計	うち女性	女性割合	合計	うち女性	女性割合	合計	うち女性	女性割合	合計	うち女性	女性割合
平成26年度	86,371	3,473	4.0%				7,449	270	3.6%	6,720	235	3.5%
平成27年度	82,143	3,313	4.0%	65,685	2,531	3.9%	7,450	332	4.5%	6,401	261	4.1%
平成28年度	77,052	3,205	4.2%	62,908	2,512	4.0%	6,512	356	5.5%	5,723	274	4.8%
平成29年度	72,509	3,253	4.5%	58,395	2,566	4.4%	6,354	374	5.9%	5,459	306	5.6%
平成30年度	65,352	3,430	5.2%	53,050	2,734	5.2%	6,351	411	6.5%	5,544	329	5.9%
令和元年度	61,563	3,292	5.4%	49,540	2,526	5.1%	6,311	451	7.2%	5,448	386	7.1%
令和2年度	60,188	3,259	5.4%	47,580	2,469	5.2%	6,673	500	7.5%	5,098	380	7.5%

※平成26年度以前の受験者は統計なし

昨年度と比較すると、消防職員への応募者が減少している中、「受験者」、「合格者」、「採用者」の項目で女性が割合が増加している。

女性消防吏員が増加した本部上位（令和3年4月）

No.	都道府県	消防本部名	令和3年度			令和2年度			増減	
			消防吏員数			消防吏員数			R3-R2	
			合計	うち女性	女性割合	合計	うち女性	女性割合	合計	うち女性
1	東京都	東京消防庁	18,735	1,282	6.84%	18,747	1,268	6.76%	△ 12	14
2	愛知県	名古屋市消防局	2,403	62	2.58%	2,370	52	2.19%	33	10
3	大阪府	大阪市消防局	3,592	150	4.18%	3,570	143	4.01%	22	7
4	鳥取県	鳥取県東部広域行政管理組合消防局	327	10	3.06%	322	5	1.55%	5	5
5	神奈川県	横浜市消防局	3,868	149	3.85%	3,852	145	3.76%	16	4
6	岩手県	盛岡地区広域消防組合消防本部	583	16	2.74%	582	13	2.23%	1	3
7	埼玉県	川口市消防局	572	26	4.55%	568	23	4.05%	4	3
8	埼玉県	埼玉西部消防局	871	44	5.05%	873	41	4.70%	△ 2	3
9	千葉県	我孫子市消防本部	167	5	2.99%	162	2	1.23%	5	3
10	神奈川県	川崎市消防局	1453	70	4.82%	1448	67	4.63%	5	3
11	静岡県	浜松市消防局	907	33	3.64%	909	30	3.30%	△ 2	3
12	静岡県	駿東伊豆消防本部	625	18	2.88%	623	15	2.41%	2	3
13	愛知県	豊田市消防本部	530	14	2.64%	525	11	2.10%	5	3
14	大阪府	堺市消防局	1046	37	3.54%	968	34	3.51%	78	3
15	兵庫県	芦屋市消防本部	121	6	4.96%	121	3	2.48%	0	3
16	和歌山県	田辺市消防本部	158	8	5.06%	151	5	3.31%	7	3
17	岡山県	倉敷市消防局	466	14	3.00%	465	11	2.37%	1	3
18	広島県	広島市消防局	1343	58	4.32%	1349	55	4.08%	△ 6	3
19	愛媛県	新居浜市消防本部	138	3	2.17%	135	0	0.00%	3	3
20	熊本県	有明広域行政事務組合消防本部	220	7	3.18%	210	4	1.90%	10	3

女性消防吏員が3名以上増加した20消防本部のうち、8本部が政令市。

女性消防吏員が多い本部上位（令和3年4月）

No.	都道府県	消防本部名	令和3年度			令和2年度			増減	
			消防吏員数			消防吏員数			R3-R2	
			合計	うち女性	女性割合	合計	うち女性	女性割合	合計	うち女性
1	東京都	東京消防庁	18,735	1,282	6.84%	18,747	1,268	6.76%	△ 12	14
2	大阪府	大阪市消防局	3,592	150	4.18%	3,570	143	4.01%	22	7
3	神奈川県	横浜市消防局	3,868	149	3.85%	3,852	145	3.76%	16	4
4	京都府	京都市消防局	1,718	83	4.83%	1,768	81	4.58%	△ 50	2
5	北海道	札幌市消防局	1,834	70	3.82%	1,823	68	3.73%	11	2
6	神奈川県	川崎市消防局	1,453	70	4.82%	1,448	67	4.63%	5	3
7	兵庫県	神戸市消防局	1,597	66	4.13%	1,579	64	4.05%	18	2
8	愛知県	名古屋市消防局	2,403	62	2.58%	2,370	52	2.19%	33	10
9	広島県	広島市消防局	1,343	58	4.32%	1,349	55	4.08%	△ 6	3
10	埼玉県	さいたま市消防局	1,399	54	3.86%	1,391	52	3.74%	8	2
11	福岡県	北九州市消防局	1,005	53	5.27%	1,003	51	5.08%	2	2
12	埼玉県	埼玉西部消防局	871	44	5.05%	873	41	4.70%	△ 2	3
13	千葉県	千葉市消防局	972	42	4.32%	974	41	4.21%	△ 2	1
14	静岡県	静岡市消防局	1,061	42	3.96%	1,061	41	3.86%	0	1
15	大阪府	堺市消防局	1,046	37	3.54%	968	34	3.51%	78	3
16	宮城県	仙台市消防局	1,145	34	2.97%	1,149	33	2.87%	△ 4	1
17	福岡県	福岡市消防局	1,113	34	3.05%	1,097	32	2.92%	16	2
18	静岡県	浜松市消防局	907	33	3.64%	909	30	3.30%	△ 2	3
19	千葉県	市川市消防局	535	32	5.98%	537	30	5.59%	△ 2	2
20	神奈川県	相模原市消防局	775	32	4.13%	781	30	3.84%	△ 6	2
21	熊本県	熊本市消防局	827	32	3.87%	839	33	3.93%	△ 12	-1

女性消防吏員30名以上の20消防本部は大規模本部で、女性割合はほぼ全国平均割合（3.2%）以上

女性消防吏員割合が多い本部上位（令和3年4月）

No.	都道府県	消防本部名	令和3年度			令和2年度			増減	
			消防吏員数			消防吏員数			R3-R2	
			合計	うち女性	女性割合	合計	うち女性	女性割合	合計	うち女性
1	石川県	内灘町消防本部	34	3	8.82%	33	2	6.06%	1	1
2	東京都	大島町消防本部	23	2	8.70%	22	1	4.55%	1	1
3	神奈川県	大磯町消防本部	46	4	8.70%	43	2	4.65%	3	2
4	岐阜県	海津市消防本部	62	5	8.06%	63	5	7.94%	△1	0
5	愛媛県	上島町消防本部	26	2	7.69%	29	1	3.45%	△3	1
6	埼玉県	蓮田市消防本部	92	7	7.61%	92	7	7.61%	0	0
7	神奈川県	葉山町消防本部	54	4	7.41%	53	3	5.66%	1	1
8	長崎県	対馬市消防本部	97	7	7.22%	101	6	5.94%	△4	1
9	東京都	東京消防庁	18,735	1,282	6.84%	18,747	1,268	6.76%	△12	14
10	広島県	安芸高田市消防本部	59	4	6.78%	58	4	6.90%	1	0
11	静岡県	御前崎市消防本部	74	5	6.76%	73	4	5.48%	1	1
12	岐阜県	瑞浪市消防本部	60	4	6.67%	60	3	5.00%	0	1
13	東京都	稲城市消防本部	108	7	6.48%	108	7	6.48%	0	0
14	和歌山県	湯浅広川消防組合消防本部	47	3	6.38%	42	1	2.38%	5	2
15	東京都	三宅村消防本部	16	1	6.25%	17	1	5.88%	△1	0
16	兵庫県	川西市消防本部	160	10	6.25%	159	10	6.29%	1	0
17	埼玉県	草加八潮消防局	343	21	6.12%	339	21	6.19%	4	0
18	千葉県	市川市消防局	535	32	5.98%	537	30	5.59%	△2	2
19	京都府	精華町消防本部	52	3	5.77%	51	3	5.88%	1	0
20	岐阜県	不破消防組合消防本部	54	3	5.56%	54	3	5.56%	0	0

**女性割合が5%以上の消防本部の約5割が、吏員100名未満の本部。
小規模な本部でも、多くの女性が活躍している本部は多数。**